

平成26年度

2回生進級時アンケート報告書

京 都 大 学 国 際 高 等 教 育 院

京都大学高等教育研究開発推進センター

・ 高等教育教授システム研究開発部門

目 次

調査の趣旨と概要.....	1
1 学習意欲などの変化.....	3
1. 1 学習意欲の変化.....	3
1. 2 出席コマ数の変化.....	6
1. 3 授業外学習時間の変化.....	8
2 成績評価への納得度.....	10
2. 1 成績評価全体への納得度.....	10
2. 2 成績評価に納得できない理由.....	12
2. 3 「納得できない理由：その他」の記述内容.....	13
3 「満足した科目」「不満だった科目」.....	14
3. 1 「満足した科目」とその理由.....	14
3. 1. 1 科目群別の集計.....	14
3. 1. 2 「満足した理由」の分析.....	15
3. 1. 3 「満足した理由：その他」の記述内容.....	16
3. 2 「不満だった科目」とその理由.....	18
3. 2. 1 科目群別の集計.....	18
3. 2. 2 「不満だった理由」の分析.....	19
3. 2. 3 「不満だった理由：その他」の記述内容.....	21
4 全学共通科目への期待.....	25
4. 1 全学共通科目に期待する内容.....	25
5 期待は実現されたか.....	28
5. 1 全学共通科目への期待は実現されたか.....	28
6 今後の全学共通科目への要望.....	30
6. 1 項目別集計.....	30
6. 2 「改善の要望：その他」の記述内容.....	32
7 自由記述.....	34
7. 1 総合人間学部.....	34
7. 2 文学部.....	35
7. 3 教育学部.....	37
7. 4 法学部.....	37
7. 5 経済学部.....	41
7. 6 理学部.....	42
7. 7 医学部.....	45
7. 8 薬学部.....	45
7. 9 工学部.....	46
7. 10 農学部.....	54
【資料】平成 26 年度 2 回生進級時アンケート（KULASIS 掲載内容）.....	57

調査の趣旨と概要

対 象：学部新2回生（平成25年入学生対象）全員

調査の目的：学生が入学後1年間の大学生活の中で京都大学の教育に対してどのような感想を抱いたかについて2回生進級時点での意見を聞き、今後の京都大学の教育を改善・充実してゆくための重要な資料とする。

調査の概要：新入生ガイダンスの際、記入してもらった「新入生アンケート」の回答を学生に返却し、自分の入学当時の抱負・期待を読み返しつつ、1年間の全学共通科目を中心とした学習を振り返って、どんなことを感じあるいは考えたかについて率直な意見を表明してもらうよう求めている。

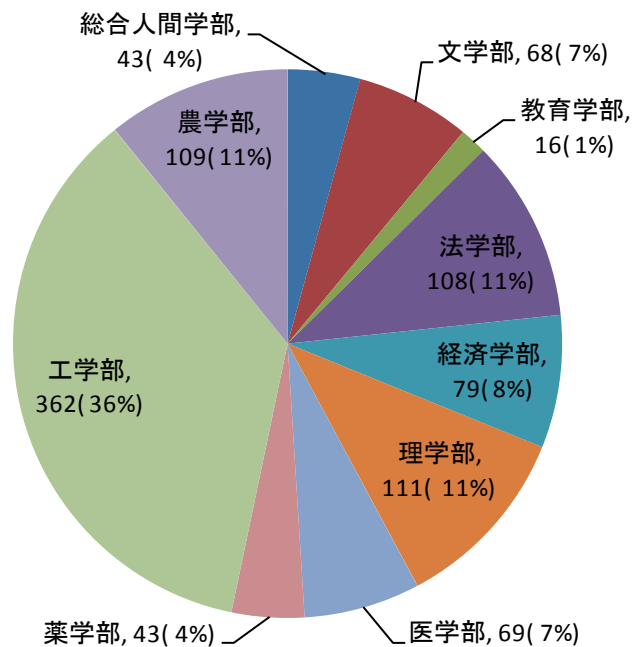
調査方法：KULASIS（京都大学教務情報システム）上でのアンケート方式をとっている。

平成26年4月、各学部新2回生が履修登録確認のためKULASISにログインした際、アンケートへの協力願いを掲示し、回答フォームに入力してもらうという方式をとった（アンケート全文は末尾に添付している）。

表 0-1 学部別アンケート提出者数・提出率

学部	在籍者数 (2014/5/1 現在)			提出者数	提出率
	計	男	女		
総合人間学部	124	86	38	43	34.68%
文学部	224	127	97	68	30.36%
教育学部	61	36	25	16	26.23%
法学部	341	251	90	108	31.67%
経済学部	255	201	54	79	30.98%
理学部	315	275	40	111	35.24%
医学部	261	135	126	69	26.44%
薬学部	85	65	20	43	50.59%
工学部	990	912	78	362	36.57%
農学部	319	221	98	109	34.17%
合計	2,975	2,309	666	1,008	33.88%

図 0-1 学部別アンケート提出者数・構成比



1 学習意欲などの変化

問1 あなたの入学以降の学習についてお尋ねします。入学当初から現在までに、あなたの①学習意欲、②一週間に出席した授業のコマ数、③授業外の学習時間（授業の予復習や学術書・教養書の読書を含む）がどのように変化したかについて、右の「作成例」を参考にして表を完成させてください（学習意欲については、下記の5つから選択して番号を記入してください）。

（学習意欲） 5. 非常に意欲あり 4. まあまあ意欲あり 3. どちらともいえない
2. あまり意欲なし 1. まったく意欲なし

（作成例）

時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初		コマ	時間
前期半ば		コマ	時間
後期開始		コマ	時間
後期半ば		コマ	時間
現在		コマ	時間

時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初	5	15コマ	1.5時間
前期半ば	4	〃	〃
後期開	4	4コマ	3時間
後期半ば	4	〃	〃
現在	1	12コマ	

* あまり深く考えず「平均」「おおよそ」でご記入ください

* 現在の「授業出席コマ数」は、4月から出席を予定しているコマ数を記入してください

1. 1 学習意欲の変化

1回生から2回生にかけての5つの時期を通しての学生の学習意欲の変化を、全学部・文系・理系の別に平均値で見ると、**図 1-1-1** のようになった。全体として、入学当初にはかなり高かった学習意欲が、時期が進むにつれて、とくに後期において、かなり低下する様子が見て取れる。2回生の新年度を迎えて、心機一転、学習しようとする意欲がかいま見える。この傾向に、文系・理系の差異はほとんど見られない。

図 1-1-2 に2005-2014年の経年変化（全体）を、**図 1-1-3** に（文系・理系）を示す。それを見ると、2014年度の学習意欲の得点は、“後期開始”と“後期半ば”において、例年より高いことがわかる。この傾向は理系により顕著に認められる。全体的には、年によって学習意欲の得点に差は見られるものの、入学当初から現在までの学習意欲の変化のパターンはさほど変わらない。

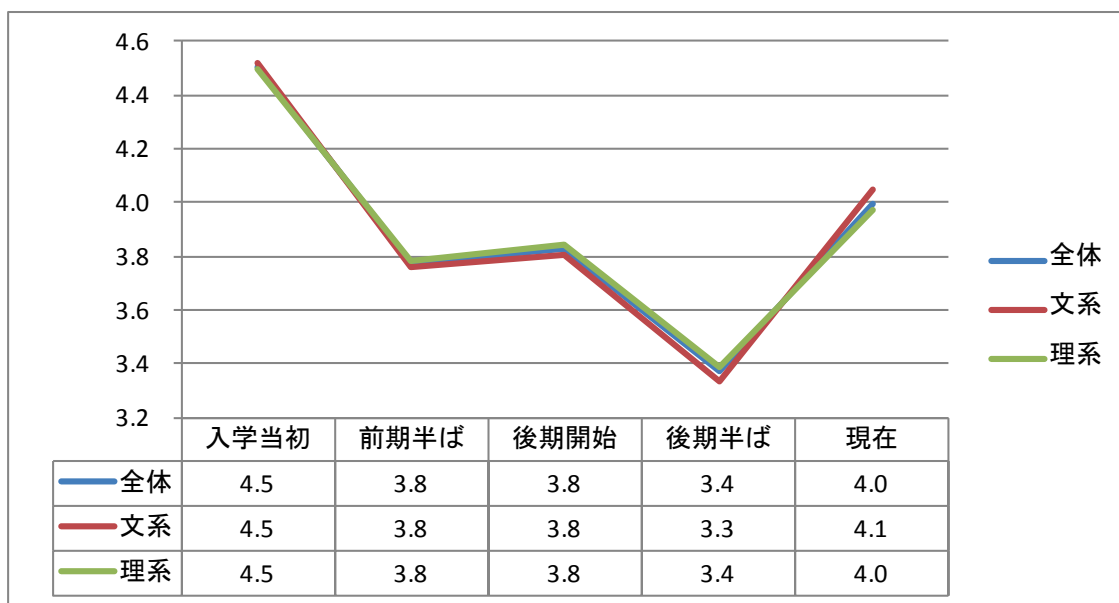


図 1-1-1 学習意欲の変化 (2014 年)

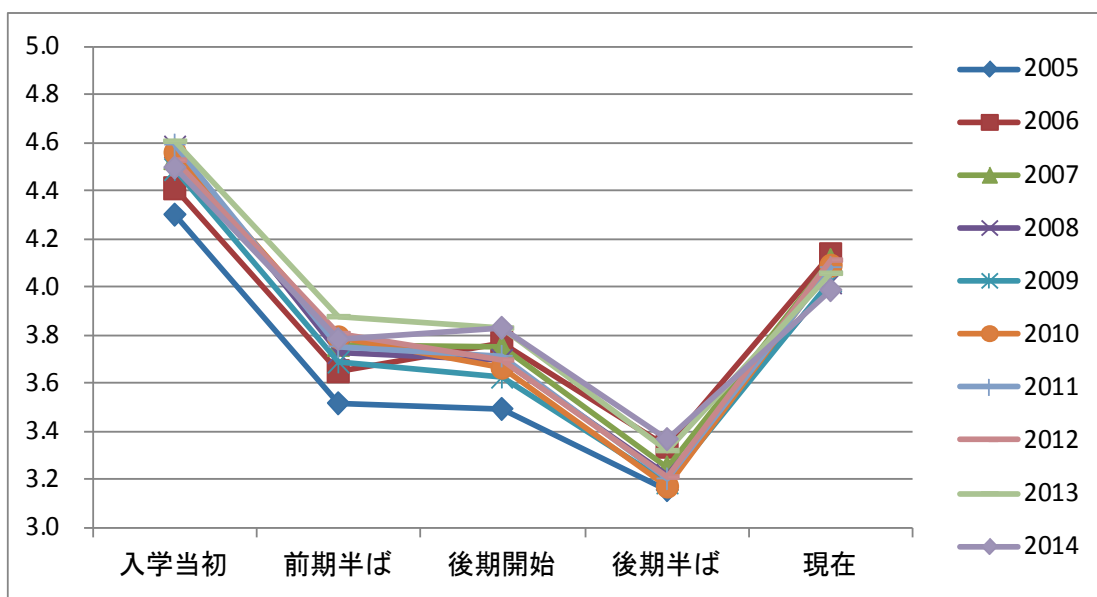


図 1-1-2 学習意欲の経年変化 (2005-2014 年) (全体)

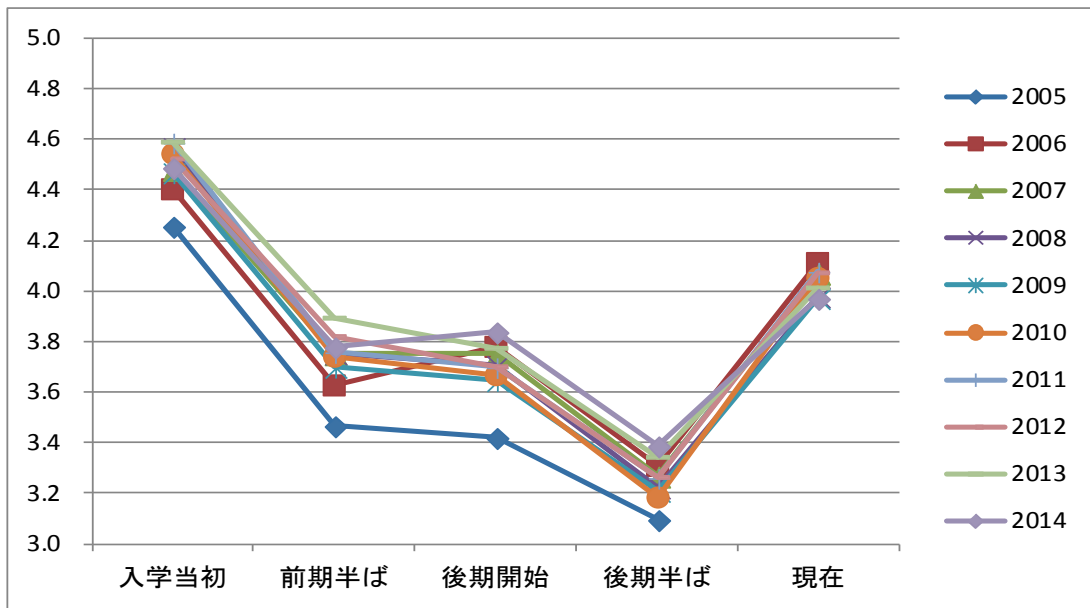
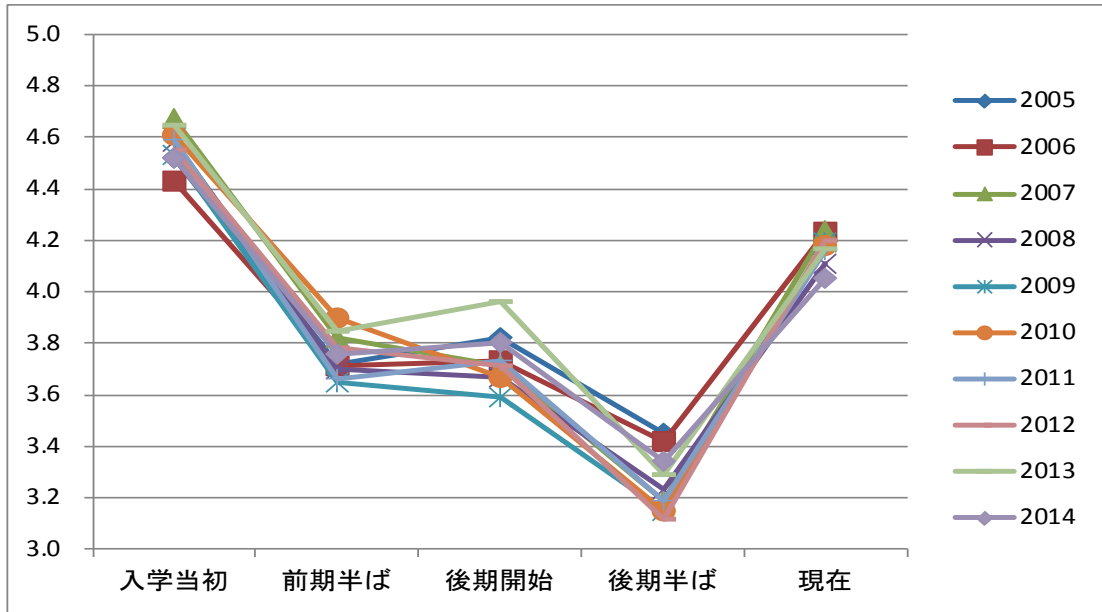


図 1-1-3 学習意欲の経年変化 (2005-2014 年) (上 : 文系 下 : 理系)

1. 2 出席コマ数の変化

1回生から2回生にかけての出席コマ数の変化を、全学部・文系・理系の別に平均値で見ると、**図 1-2-1** のようになった。全体として、入学当初は平均 16~18 コマ出席していたものが、徐々に減少し、後期半ばには平均 12~14 コマとなっている。5つの時期を通じて、理系が文系よりも出席コマ数が多い。

図 1-2-2 に 2005-2014 年の経年変化（全体）、**図 1-2-3** に（文系・理系）を示す。それを見ると、入学当初から現在までの出席コマ数の変化パターンは、年によってさほど変わらないが、2014 年の“入学当初”の出席コマ数は、2013 年まで 20 コマ近くまで上昇傾向にあったものが、17.4 コマまで大幅に減少している。昨年に全学共通科目の履修上限を導入（工学部を除く）したことが効いていると考えられる。

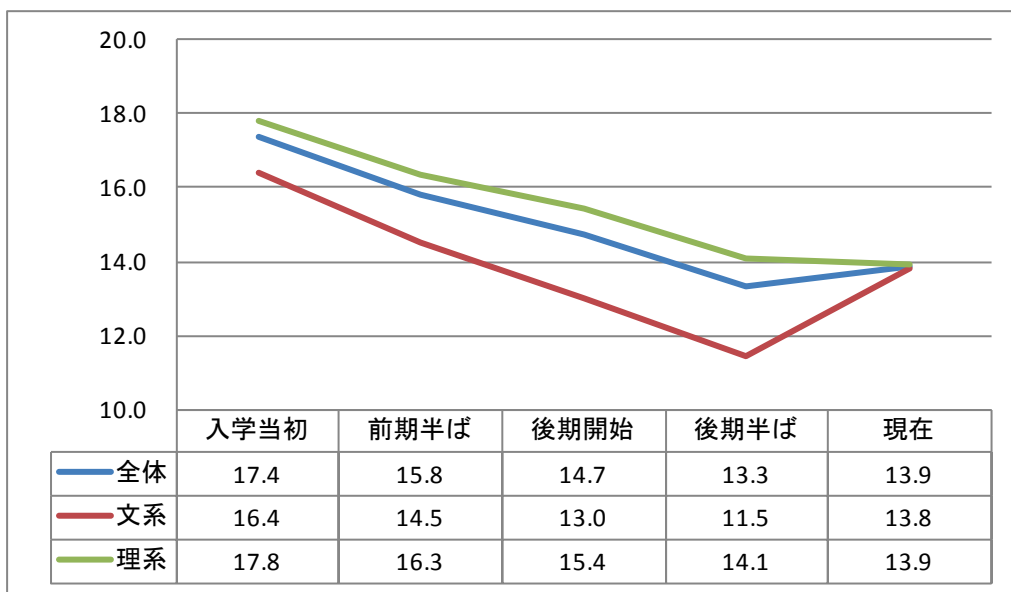


図 1-2-1 出席コマ数の変化（2014 年）

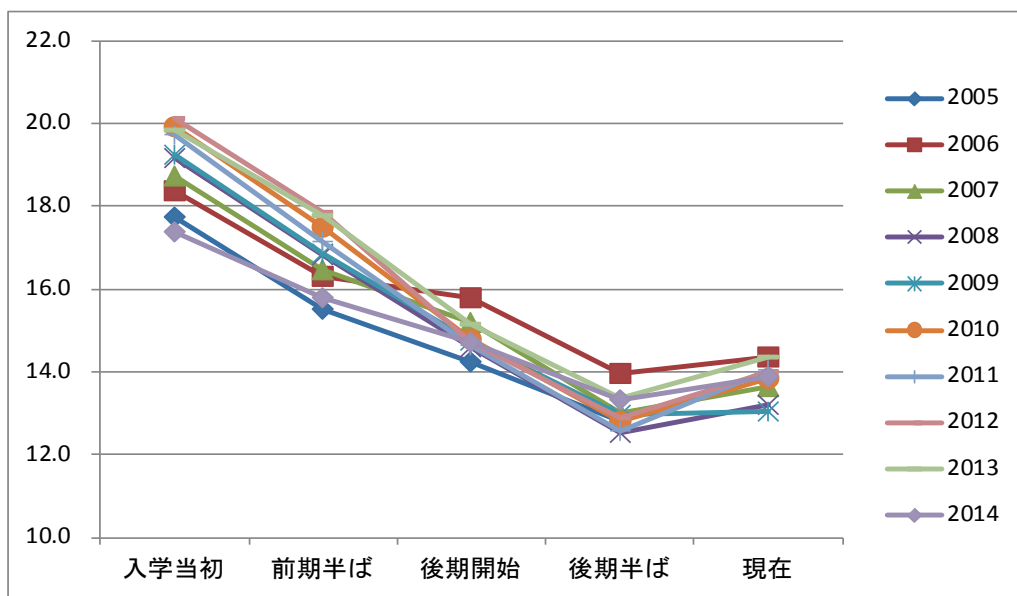


図 1-2-2 出席コマ数の変化（2005-2014 年）（全体）

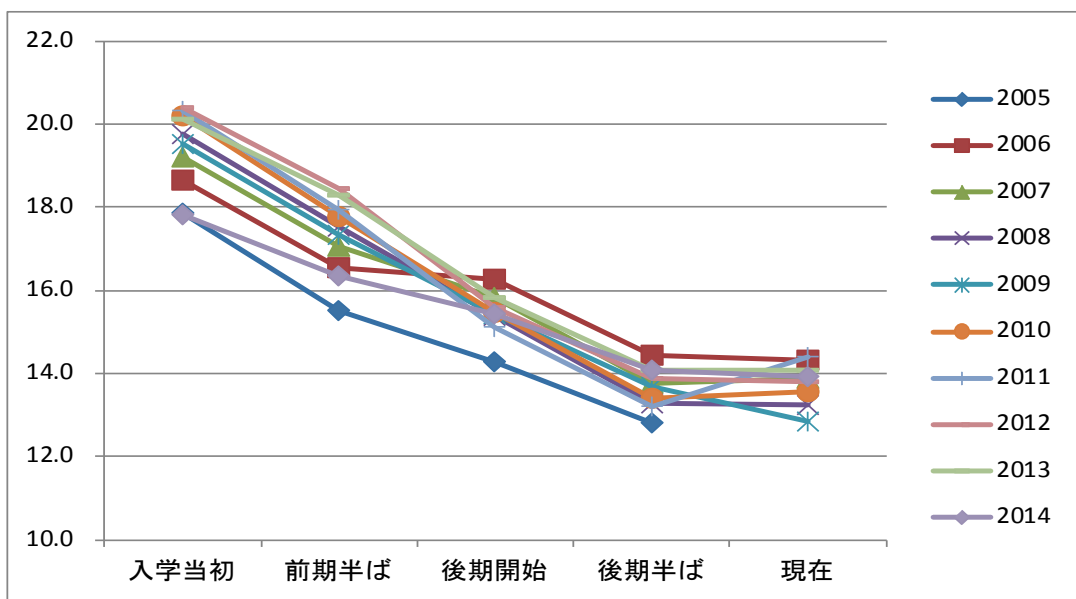
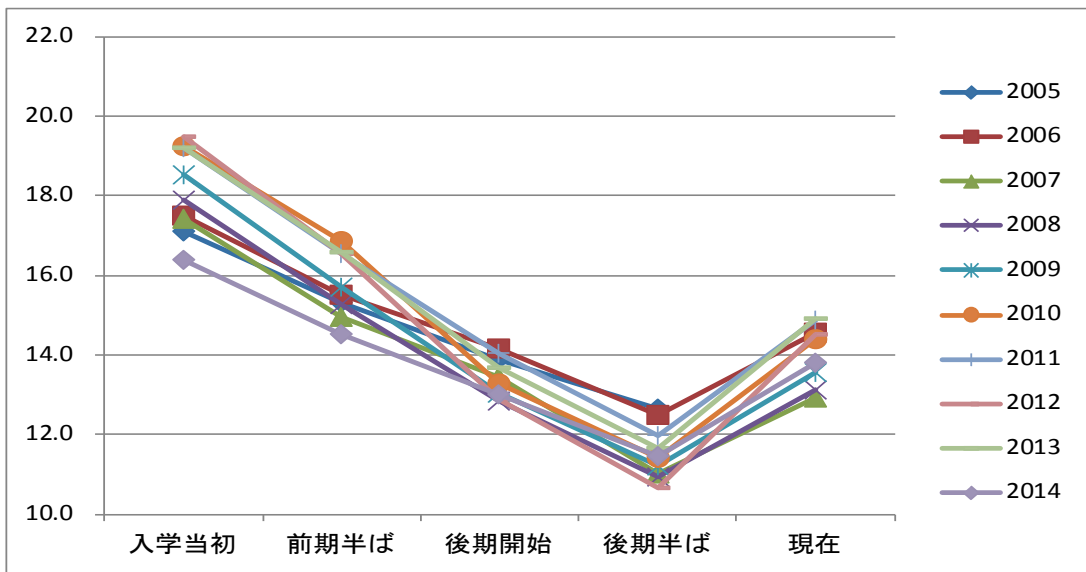


図 1-2-3 出席コマ数の変化 (2005-2014 年) (上 : 文系 下 : 理系)

1. 3 授業外学習時間の変化

1 回生から 2 回生にかけての授業外学習時間の変化を、全学部・文系・理系の別に平均値で見ると、**図 1-3-1** のようになった。全体的に 2.8~3.0h/日の授業外学習時間である。理系は、1 年かけて授業外学習時間があまり変化しないのに対して、文系は、後期から 2 回生にかけて授業外学習時間が長くなっていく。

図 1-3-2 に 2005-2014 年の経年変化（全体）を示す。それを見ると、2007 年以降全体的に授業外学習時間が長くなっていること、とくに 2013 年、2014 年の 2 年は、これまでに比べて授業外学習時間がかなり長くなっていることを見て取れる。もっとも、文系・理系別に見ると（**図 1-3-3** を参照）、文系の 2014 年は 2013 年に比べて、年間を通じて授業外学習時間が短くなっている。

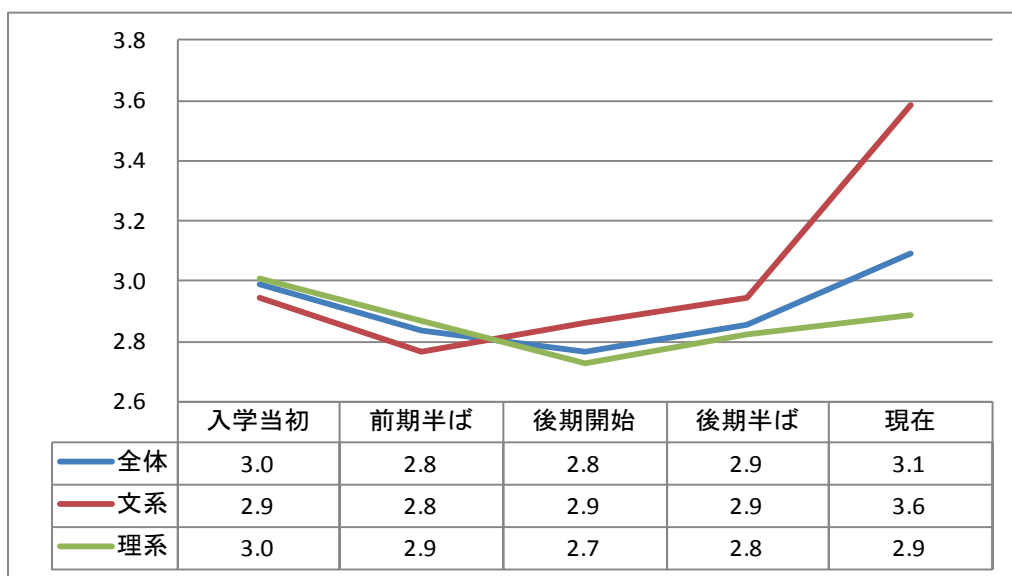


図 1-3-1 授業外学習時間の変化（2014 年）

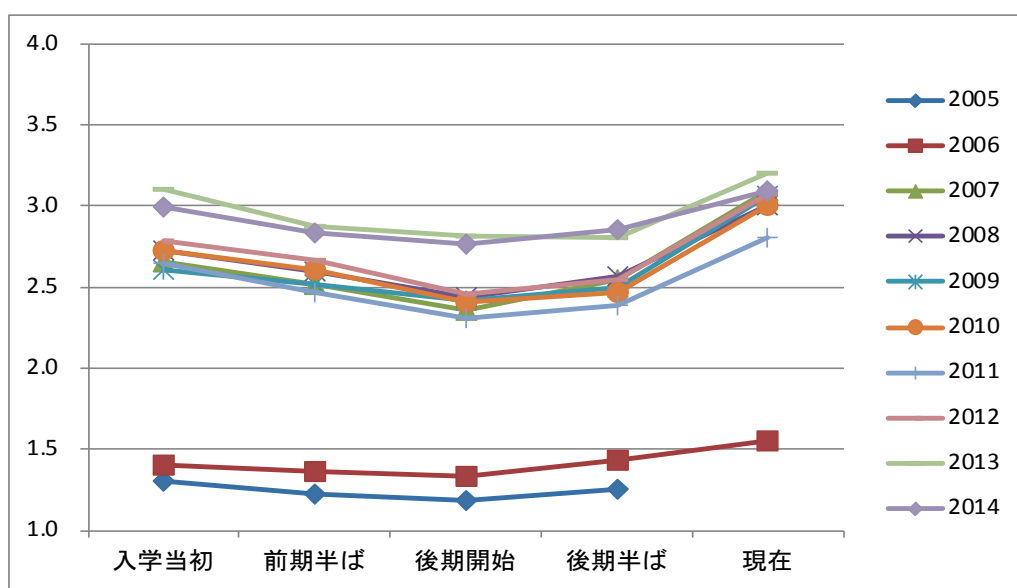


図 1-3-2 授業外学習時間の変化（2005-2014 年）（全体）

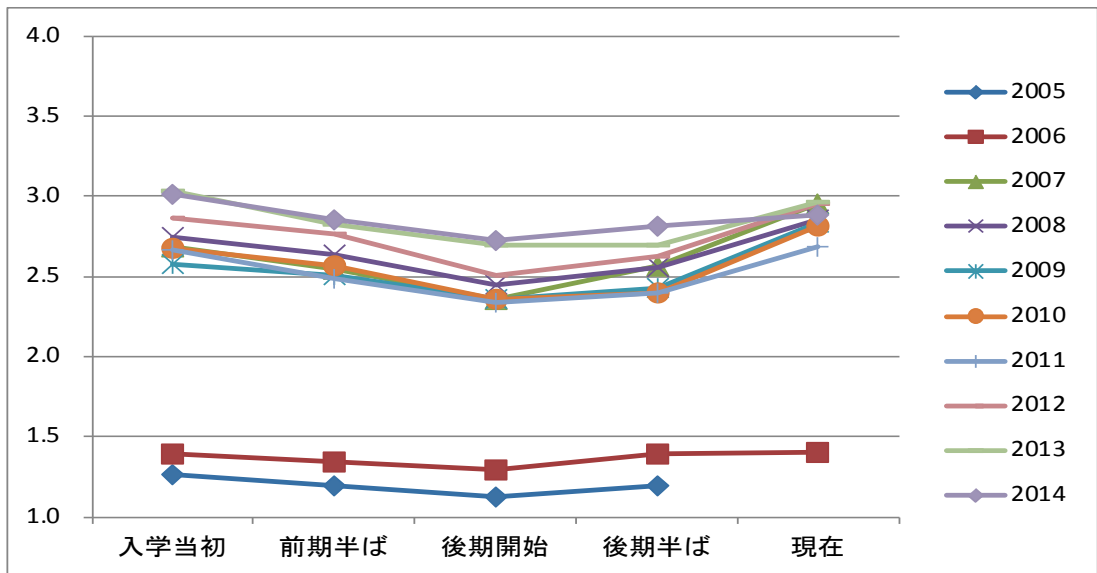
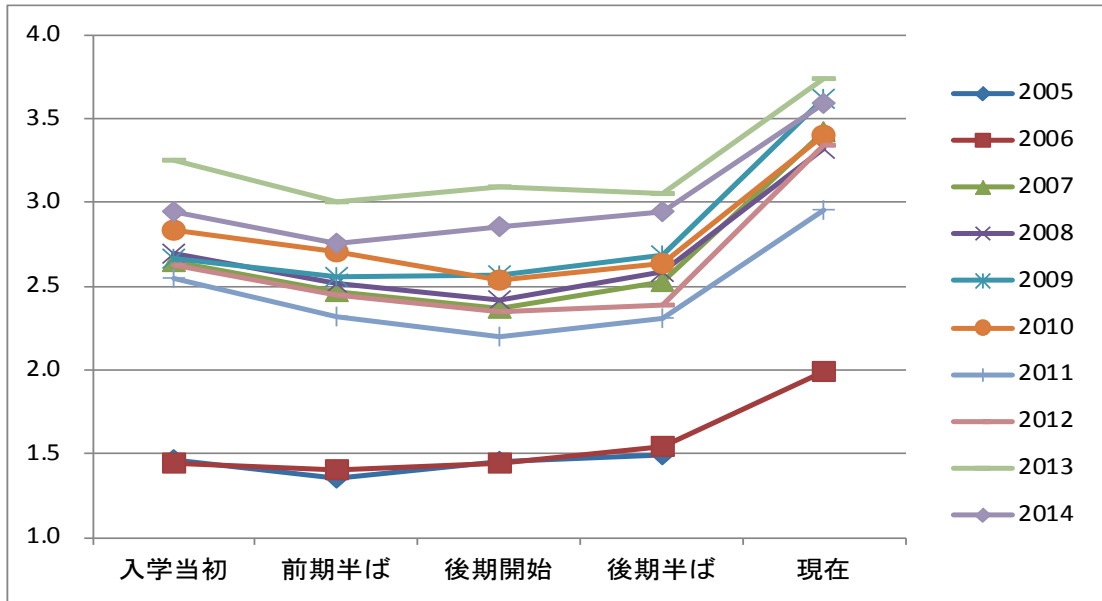


図 1-3-3 授業外学習時間の変化 (2005-2014年) (上: 文系 下: 理系)

2 成績評価への納得度

問2 1 回生時の全学共通科目の成績評価についてお尋ねします。

A. 全体として、自分の成績評価に納得していますか。

- 1 納得している 2 どちらかといえば納得している
3 どちらかといえば納得できない 4 納得できない

B. A. で3または4を選んだ人にお尋ねします（1または2を選んだ人は問3に進んでください）。成績評価に納得できなかった理由は何ですか。あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの1つを選択してください。

- 1 成績評価が厳しすぎる
 2 成績評価が甘すぎる
 3 成績評価の基準・方法が学生に対して明確に示されていないかった
 4 成績評価の基準・方法が不公正である
 5 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～5から選択）

2. 1 成績評価全体への納得度

図2-1-1に全学共通科目の成績評価の納得度（全体）を示す。「納得している」と「どちらかといえば納得している」をあわせると91%になる。大半の学生が、ほぼ成績評価に納得していると言える。文系・理系の差（図2-1-2を参照）もほとんど見られず、「納得している」を4点、「納得できない」を1点に逆転させて平均点を算出し、2005-2014年の経年変化を見ても、ほとんど変化していない（図2-1-3を参照）。

少数であるが、「納得できない」と回答した者の主な理由を見ると、「成績評価の基準・方法が明確に示されていないかった」がもっとも多く、次いで多かったのは「成績評価が厳しすぎる」であった（図2-2-1を参照）。

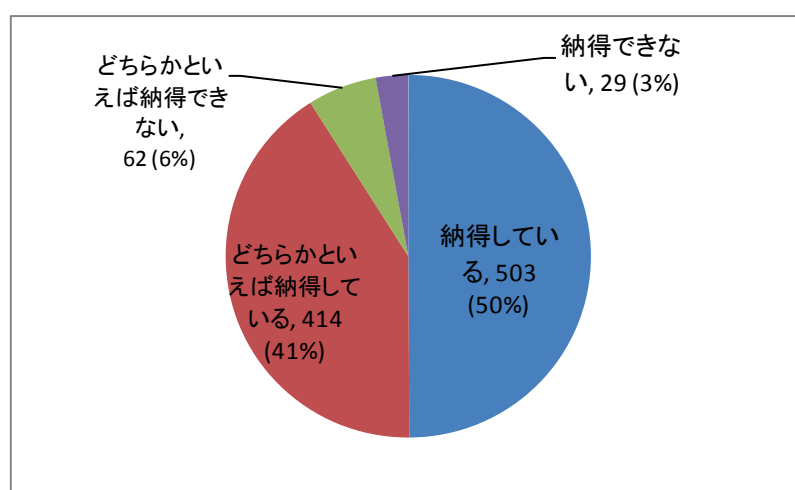


図 2-1-1 成績評価全体への納得度（2014年）（全体）

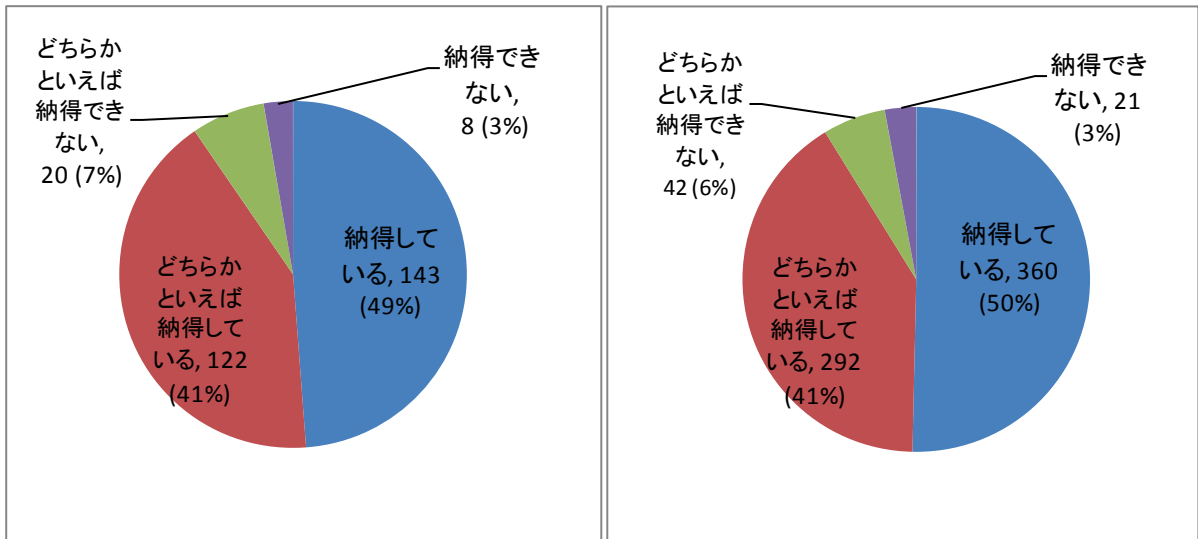


図 2-1-2 成績評価全体への納得度 (2014 年) (左：文系 右：理系)



図 2-1-3 成績評価全体への納得度 (2005-2014 年)

2. 2 成績評価に納得できない理由

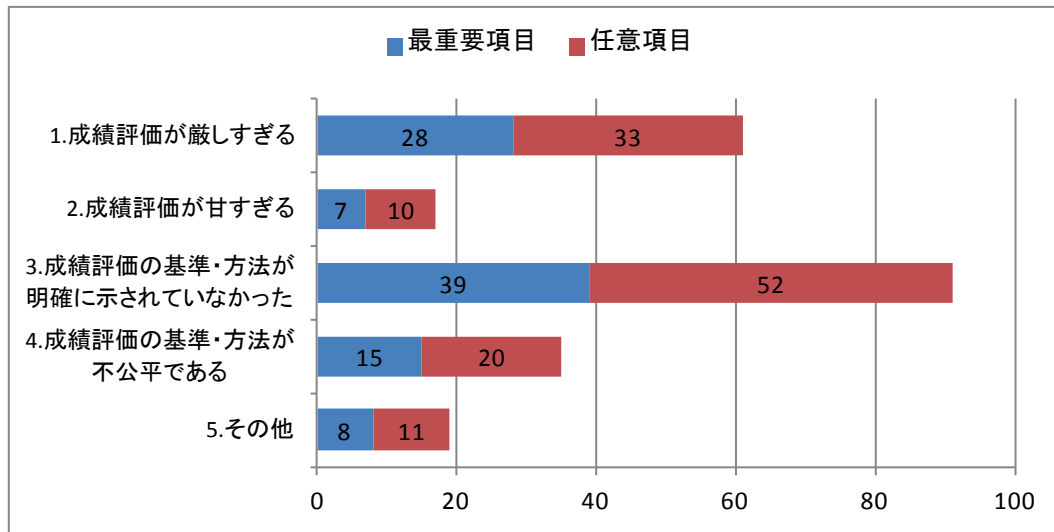


図 2-2-1 成績評価に納得できなかった理由・項目別集計（全体）

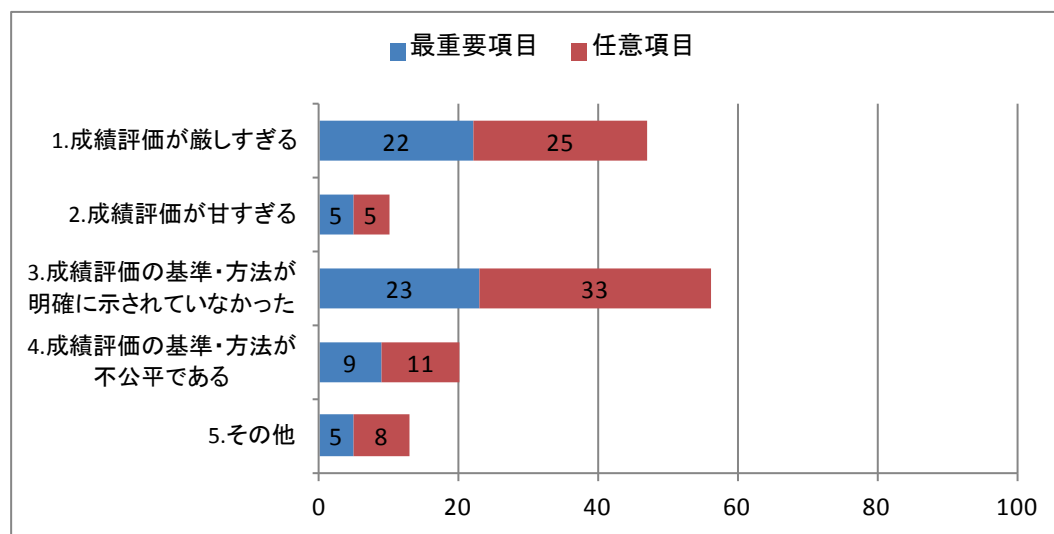
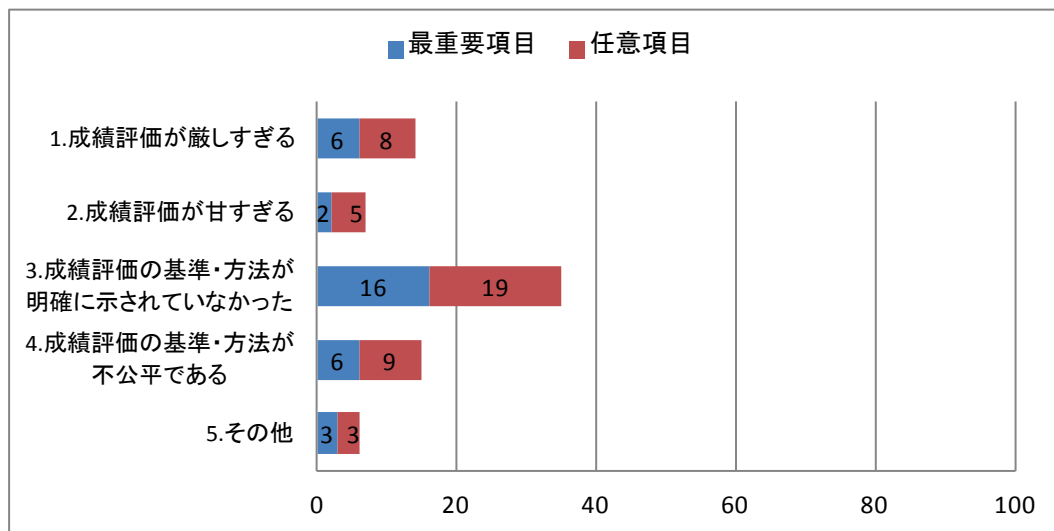


図 2-2-2 成績評価に納得できなかった理由・項目別集計（上：文系 下：理系）

2. 3 「納得できない理由：その他」の記述内容

末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

なお、修正を加えず、誤字・脱字もそのまま記載している。

- 自分の怠慢さに納得できない。【教・男】
- 出世起点を厳格にするなど、高校以前には当然であったマナーを徹底すべき。【法・男】
- 怪我で休んだスポ実でその事を担当教員に伝えたのに、不可にされたから。【理・男】
- もっと出席すべきだった。【薬・男】
- アンケートとかどうでもいい連絡ばかりで、成績についての連絡が不十分にも程があるため、自身の成績云々以前の問題が多い。【薬・男】
- 同じ科目でも担当教員によって評価が大きく異なりあまりに統一性がない。また、ほぼ全員の履修者に単位を与えるもしくは半分以上を不可とするというのはその教員の評価方法、学生の授業の理解度の把握に問題があると思われる。【工・男】
- 試験の内容に偏りがあり、努力が反映されなかったものがあつた。【工・男】
- 自分自身【農・男】
- 韓国と違って、成績異議の申し立てをすることができません。【農・女】

3 「満足した科目」「不満だった科目」

3. 1 「満足した科目」とその理由

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

A. あなたがとくに満足した科目をいくつか思い浮かべてください（もし満足した科目がなければBに進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、人社、自然、外国語、現社、拡大のうちの1つを選択してください。また、それぞれの科目について満足した理由として、あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

科目1

科目名：（自由記述）

登録群：（人社・自然・外国語・現社・拡大から選択）

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容が興味深かった
- 2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた
- 3 授業の進め方に工夫がみられた
- 4 担当教員の熱意を感じた
- 5 成績評価の方法や結果に納得できた
- 6 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～6から選択）

（以下、科目2、3も同様）

3. 1. 1 科目群別の集計

「満足した科目」を、登録群（人社・自然・外国語・現社・拡大から選択）の構成比によって集計すると、**図 3-1-1** のようになった。全体では「人社」科目がもっとも多く、次いで多かったのは「自然」科目であった。この傾向は文系でより顕著であった。「満足した理由」（**図 3-1-2a** を参照）は、「授業の内容が興味深かった」が圧倒的に多く、次いで多かったのは「担当教員の熱意を感じた」であった。この傾向に文理の差は見られなかった（**図 3-1-2b** を参照）。

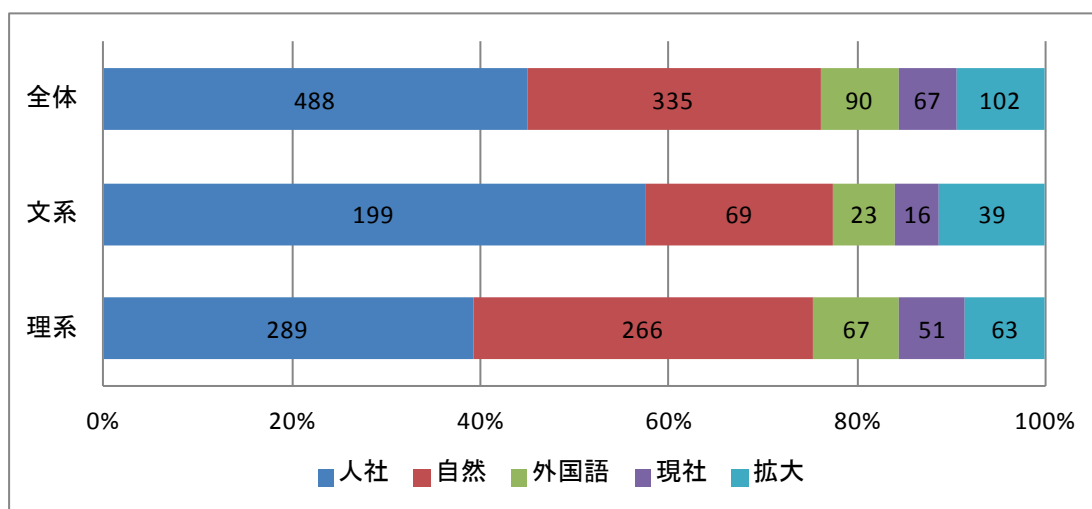


図 3-1-1 「満足した科目」科目群別科目数（構成比）

3. 1. 2 「満足した理由」の分析

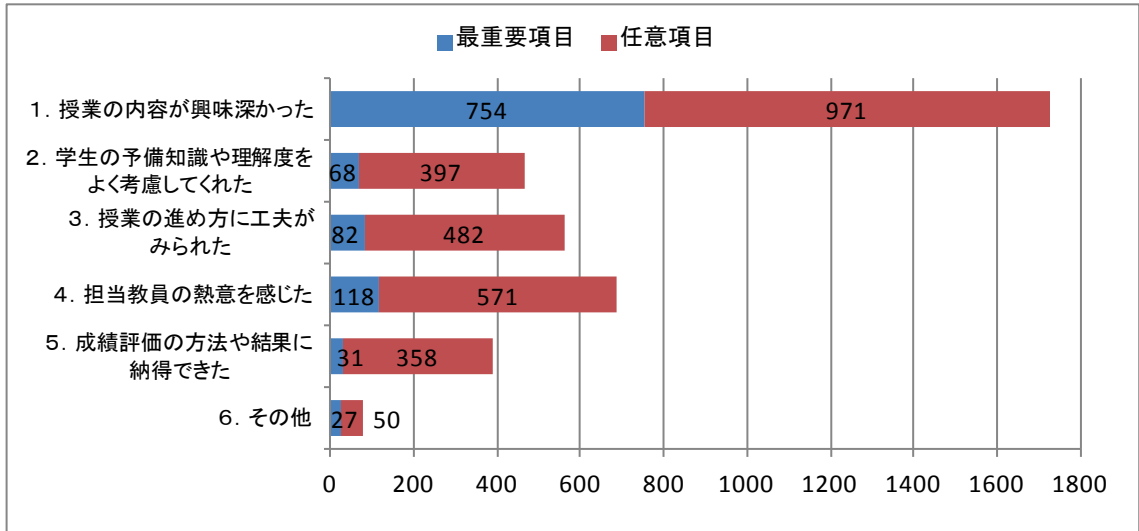


図 3-1-2a 「満足した理由」項目別集計（全体）

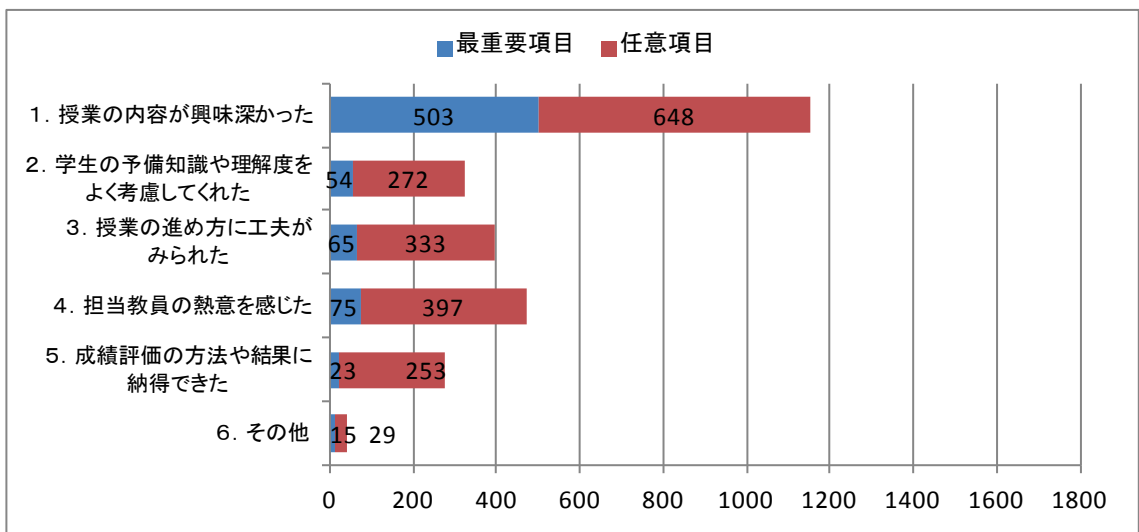
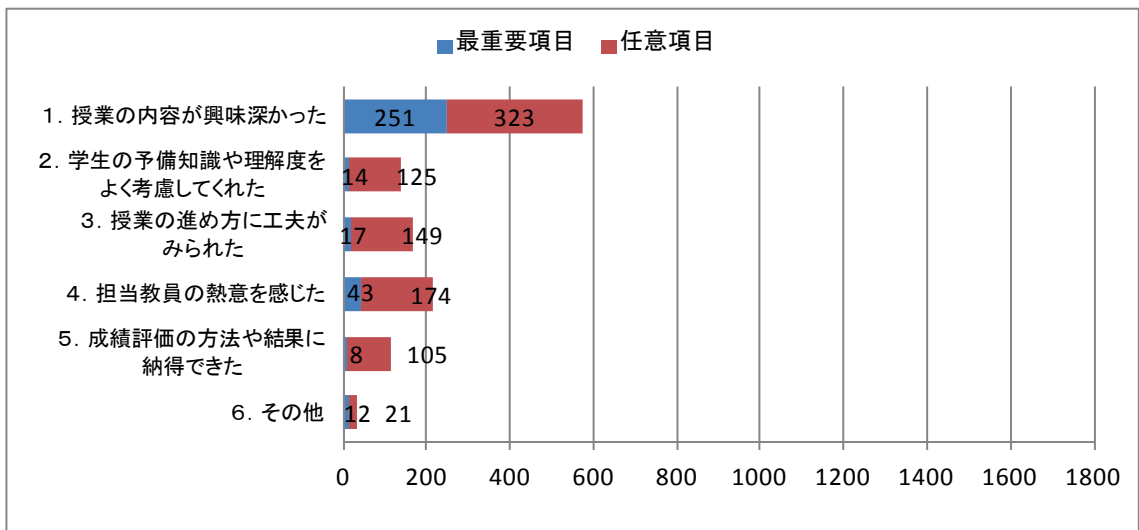


図 3-1-2b 「満足した理由」項目別集計（上：文系 下：理系）

3. 1. 3 「満足した理由：その他」の記述内容

「満足した理由」の「6 その他」については、その内容を自由記述方式で尋ねている。

以下、人社群、自然群、外国語群、現社群、拡大群の別に、記述内容を掲載する。

なお、末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。修正を加えず、誤字・脱字もそのまま記載している。

■人社群科目

- 学問に対する向き合い方を学ぶことができた。【文・男】
- 先生のお話が面白く役に立った【文・女】
- 先生が優しかった【教・男】
- 留学生とのディスカッションが面白かった。【教・女】
- 受け取りかたも重要だと思ったが、教員にカリスマ性を感じた【法・男】
- 担当教員が面白かった【法・男】
- レポートの内容が面白かった【法・男】
- 授業が大変面白く、印象に残った【法・女】
- 通説以外の説にも触れ、歴史を多角的に見ることができた。【理・男】
- 数学を絡めつつの講義だったので、理解しやすかった【理・男】
- その道のプロが実際に経験した具体的な話を聞けて非常に面白かった【理・女】
- 京都にいるという特色を生かし、京都についての話が多く、また校外への散策・見学もあり良かったと思う。【工・男】
- 英語のリスニングもできた【工・男】
- 期末レポートの内容を通して、いろいろ考えることができた【工・女】
- 教授のお話がとても面白かった【農・女】

■自然群科目

- 数学史を通して学問のあり方や歴史の考え方について学ぶことができた。【文・男】
- 授業内容が非常にためになった【文・女】
- 自分の相談にのってくれた。【教・女】
- 文系と理系の違いを明らかにしつつそれを総合していく内容が興味深かった。レポートのフィードバックが面白く、学習意欲がわいた。【教・女】
- 先生が生徒の疑問に全て答えてくれました【理・男】
- 外に出たり楽しかった【理・女】
- マニアック【医・男】
- 化学実験の基礎的な操作について知ることができた。【薬・男】
- 主として二回生配当を最後までやり切れた【工・男】
- 授業内容に一般書に記載されていないような、オリジナリティのあるテーマを扱っていた。【工・男】
- 演習が十分にあった【工・男】
- レポートの書き方を学べた【工・男】
- 非常に難解だったが頑張ったら単位をくれて報われた感じがかなりした【工・男】
- 2コマ連続なのに、授業を受けても疲れない【工・男】
- レポートの書き方など勉強になった【工・男】

- 他クラスとは異なり、非常に多岐にわたる知識を授けてくれた。【工・男】
- 実習がよい経験になった【農・男】

■外国語科目

- 押しつけがましくない進度が、自分にはあっていた【文・男】
- ウィットが効いていて、物事の見方について考えさせられる授業だった。【文・男】
- 先生の視点が面白かった【文・女】
- 分かりやすかった【経・男】
- 授業が面白く飽きない。先生の予習量が凄くて感動する。周りの友達の評価もとてもいい。【工・男】
- 論文を書く題材の実験やアンケートを実際に行ったことは、負担が大きかったが課題やテーマに主体的に取り組むためには良い方法かもしれないと思った。【工・男】
- ホームページを開設していただいていたので、過去問などが容易に手に入り、学習しやすかった。【工・男】
- 担当教員の迫力を感じた【総人・男】

■現社群科目

- 健康に生きるためには何をすべきかについて内省することができた。【文・男】
- 授業内容が非常にためになった【文・女】
- 現代人に必須な情報系の知識や技能を習得することができた。【薬・男】

■拡大群科目

- 楽しく参加できた【教・女】
- とても楽しかった。【理・男】
- いろいろな分野の人の話が聞けるのが楽しかった【理・女】
- 人とのつながりや視野が広がった【理・女】
- 充実した授業だった【工・男】
- 京大から徒歩圏内の観光地をまわることができた【農・女】

3. 2 「不満だった科目」とその理由

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

B (不満だった科目)

あなたが特に不満だった科目をいくつか思い浮かべてください（もし不満だった科目がなければ問4に進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、人社、自然、外国語、現社、拡大のうちの1つを選択してください。また、それぞれの科目について不満だった理由として、あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

科目1

科目名：(自由記述)

登録群：(人社、自然、外国語、現社、拡大から選択)

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容に興味を持てなかった
- 2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった
- 3 授業の進め方に工夫がみられなかった
- 4 担当教員が不熱心だった
- 5 成績評価の方法や結果に納得できなかった
- 6 教室環境（広さ・設備など）に問題があった
- 7 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～7から選択）

(以下、科目2、3も同様)

3. 2. 1 科目群別の集計

「不満だった科目」を、登録群（人社・自然・外国語・現社・拡大から選択）の構成比によって集計すると、**図 3-2-1** のようになった。「不満だった科目」は全体で344件であり、「満足した科目」の1,082件に比べると、その3分の1である。それを前提として考察すると、全体では「自然」科目がもっとも多く、次いで多かったのは「人社」科目であった。この傾向は理系でより顕著であった。「不満だった理由」(**図 3-2-2a**を参照)は、「授業の進め方に工夫がみられなかった」「学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった」がもっとも多く、次いで多かったのは「成績評価の方法や結果に納得できなかった」「授業の内容に興味をもてなかった」であった。回答件数は理系のほうが文系よりも多かったが、この傾向にあまり文理の差は見られなかった(**図 3-2-2b**を参照)。

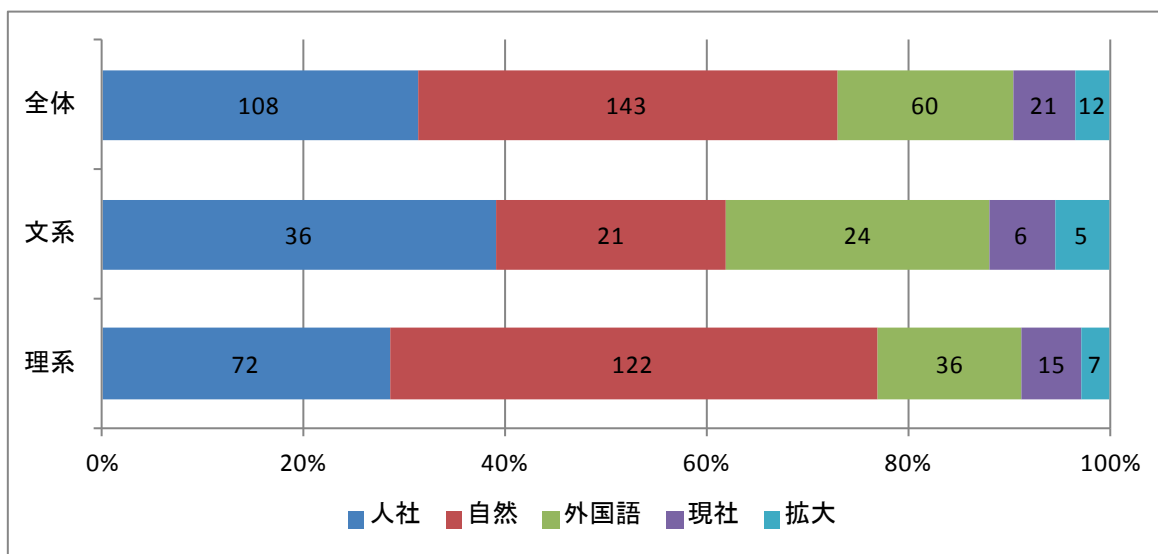


図 3-2-1 「不満だった科目」科目群別科目数（構成比）

3. 2. 2 「不満だった理由」の分析

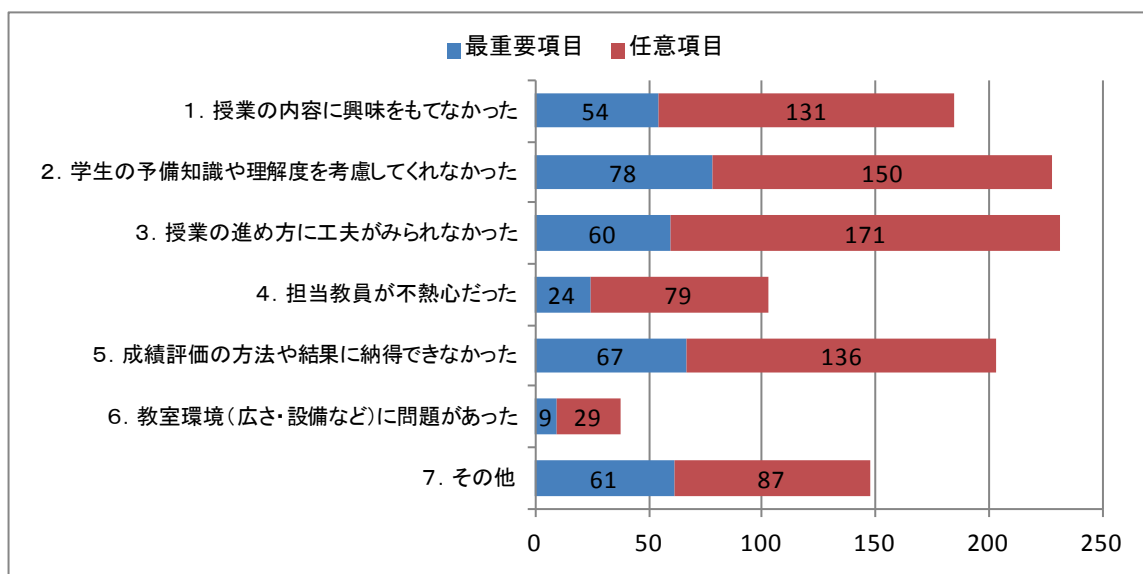


図 3-2-2a 「不満だった理由」項目別集計（全体）

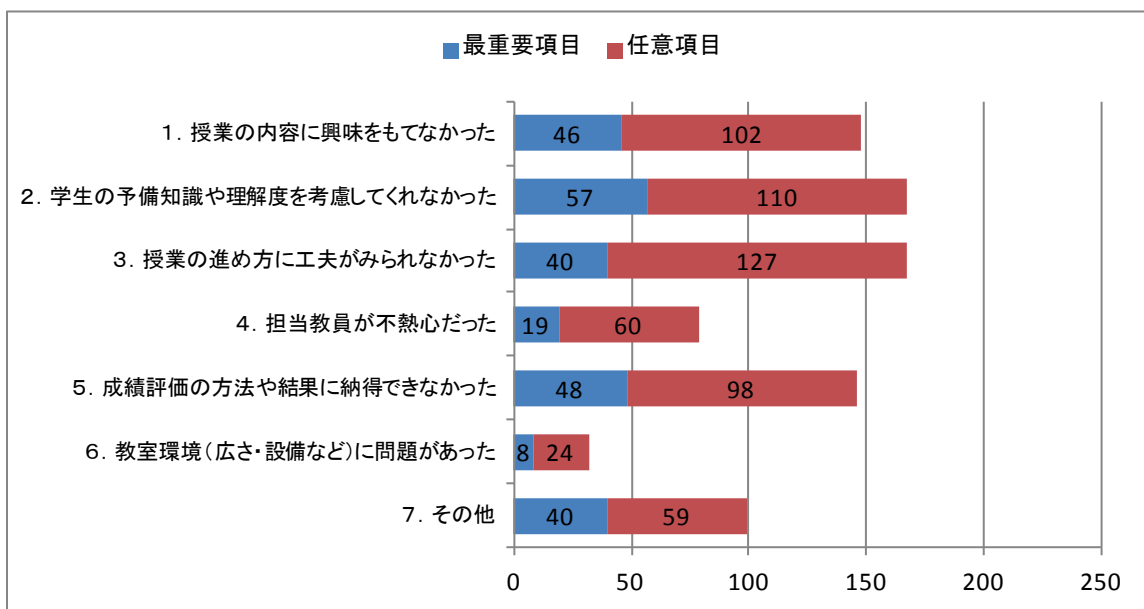
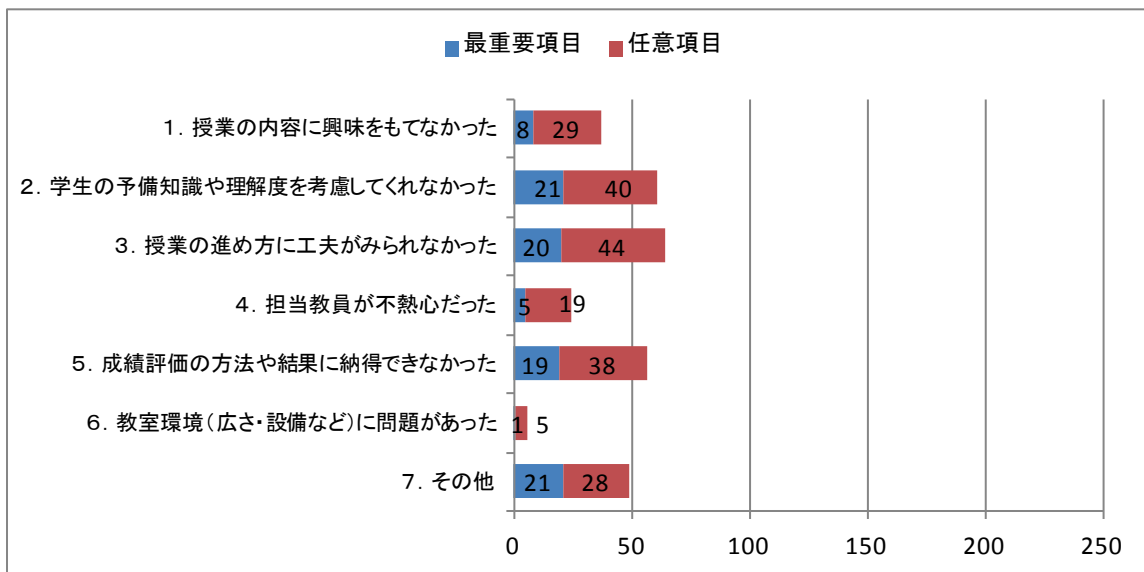


図 3-2-2b 「不満だった理由」項目別集計（上：文系 下：理系）

3. 2. 3 「不満だった理由：その他」の記述内容

「不満だった理由」の「7 その他」についても、その内容を自由記述方式で尋ねている。

以下、人社群、自然群、外国語群、現社群、拡大群の別に、全記述内容を掲載する。

末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。なお、修正を加えず、誤字・脱字もそのまま記載している。

■人社群科目

- 説明が不明瞭【文・男】
- 休講が多かった【文・男】
- 講義がほぼレジュメの内容だけに終始していたので、レジュメさえあれば講義は不要だった。【文・男】
- 出された課題をこなす意義が感じられなかった【文・女】
- 〇〇史で重要でないところばかり解説していて何が言いたいのかわからなかった【教・女】
- 受講している学生の態度が良くなかった【教・女】
- 授業の進度が非常に遅かった。【教・女】
- 教員が授業に毎回遅れてきて、しかも毎回授業を延長した。【教・女】
- 滑舌が悪い【法・男】
- 何が言いたいのかわからないことが時々あった【法・女】
- 〇〇史を聞けると思ったのに建物と地理の話ばかりだった【理・女】
- 開講直前にシラバスの変更があった。【医・男】
- シラバスの通りに授業が進められず、全く違う内容だった【医・女】
- シラバスと違う講義をしていた【工・男】
- パワーポイントでしゃべって板書不可能にもかかわらずレジュメも配らなかったから【工・男】
- 学習した内容のほとんどが既知だったり、知識内容が浅かったりした。話の脈絡も無かった。【工・男】
- 休講が多くて十分に学べなかった【工・男】
- 講義内容がまとまっていなかった【工・男】
- 教員の体調不良のためとはいえ休講が多過ぎる。自分は大正・昭和史を勉強したかったが、授業は明治の話で終わってしまった。授業回数からして、単位の認定についても問題があったと思われる。【工・男】
- 板書と話の繋がりが学生には理解しにくいものがあった【農・男】
- シラバスの変更なしに、授業内容を初回の授業で変更していた【農・男】
- 授業内容がシラバス記載のものと異なっていた【農・女】
- 教室定員が少なく、出席のみで単位が取れるため寝るために来る学生や喋っている学生がいた。授業開始15分前に教室に入らないと席が埋まり授業が受けられなかった。毎回席を詰めて座ってくれと言われるのに次の週にはまた席を空けて座っている生徒がほとんどだった。担当教員の授業への意識の差が激しく、何度か聞くに堪えない授業があった。【総人・男】
- ゼミではなく講義だった【総人・男】
- 教員がよく生徒に質問をするが手をあげた学生に限定するため、意欲的な学生が少なく授業の進行が止まることが多かった。教員の問題でもあるが、授業に不参加な学生の問題である。【総人・男】

- 教員の字が汚く、ほとんど読めなかった【総人・男】

■自然群科目

- 履修者が非常に多いにもかかわらず履修制限が行われなかった【文・男】
- 内容が環境保護に偏りすぎている【文・男】
- 内容が簡単すぎるように思った（文系からしても）【法・男】
- レポートの分量が過大な割に実験が1週ごとだったので殆どの時間を割かれ他の科目との兼ね合いが取りにくくなってしまった【理・男】
- 説明が分かりにくい。高校を卒業したての生徒に対するものとは到底思えないほど難解。【理・男】
- 予告なしに成績評価に含まれる小テストが行われたから。【理・男】
- 文字、図がはっきり見えなかった【理・男】
- とにかく分からなかった【理・男】
- レポートの採点基準が示されないののでどう改善すればいいのか分からない【理・男】
- 授業内容がシラバスと異なり、物理学を履修したとは言えない内容だった【理・男】
- レポート課題の連絡メールがこなかった【医・女】
- 生物選択で受験した薬学部生も必修にすることに納得がいかない。既に知ってることしかやらないので退屈だった。キャップ制のうちの2単位をこれで埋められるのが納得できなかった。【薬・男】
- 授業内容にまとまりが無かった【工・男】
- こういう機会が少ないので書かせていただきます。レポートの分量とレベルに2単位はつりあわないと思います。レポートの考察の内容は、ヒントや例示としてはとても有難いのですが、ある程度指定されて逆に書きにくいことも多少ありました。実験のテーマは、考察の対象としては書いていて楽しいものもありましたが、リサージュ図形など結局何をやらせたかったのだろうと感じる実験もありました。一定期間が過ぎたらレポートを受け取らない仕組みはしんどかったです。どうせ決まっているのなら毎回のレポートに点数や評価を書きただけだとわかりやすいです。大切な授業だと思いますが、基礎化学実験以上にしんどかったのでトラウマ要素が大きいです。【工・男】
- 抽象的説明ばかりで具体例がなかった【工・男】
- レポートの具体的な書き方がわからなかった【工・男】
- 明らかに、取得できる単位と学習時間が釣り合っていない。【工・男】
- 課題があまりにも重い【工・男】
- 授業のレベルが高すぎて（具体的な話が少なくイメージが掴みにくい）ほとんどの一回生がついていけない。ただし教授は熱心で質問にしっかり答えてくれました。【工・男】
- 必要な勉強時間に比して単位が少なかった。内容については不満はない。【工・男】
- 配布するといったプリントを配布してくれなかった【工・男】
- 課題の量が多すぎた【工・男】
- 成績の悪い者に対する言動が暴力的だった【工・男】
- レポートしんどすぎ。【工・男】
- 後ろに座ったら黒板が見えない【工・男】
- 授業のプリントをKULASISにアップすると言っておきながらアップしなかった。【工・男】
- 拘束時間の割りに単位数が少ない。成績のつけ方も厳しい。【工・男】
- 授業内容にまとまりが無かった【工・男】

- 板書が速すぎる。添え字が読みづらい。【工・男】
- 期末試験の採点が甘すぎる【農・男】
- 授業内容を板書するだけでプリントや参考書がないにもかかわらず授業を進行するスピードが早く、板書を写すことか授業内容を理解することのどちらか一方しかできない状態であり、一部の生徒を除いて自分を含むほとんどの生徒が授業を理解できずただ板書を写しているだけであり、完全に生徒が置き去りにされていたように思われた【工・男】
- 初修物理学 A との連携がとれていなかった。【農・男】
- 授業が分かりにくく、教科書を読む方が良く分かった。【農・女】

■外国語群科目

- 宿題が辛い【文・男】
- 新しく得るものがなかった。【教・女】
- 一度ついていけなくなると全くついていけなくなった【法・男】
- 京大の割にレベルが低く感じ、やる気が出なかった。【法・男】
- 課題量が他のクラスと比べても理不尽に多かった。【法・女】
- 他の〇〇（科目名）の先生に比べ、はるかに負担がおおきかった【経・男】
- 担当教員の話し方が癪にさわった【経・女】
- 教科書の回答をくばらない【理・男】
- 教員が低能である【理・男】
- TA さんがかわいそうでした。【理・女】
- 先生と TA がいつも険悪なムードだった【理・女】
- 学生に対する不満を露にする【医・男】
- 時間内に終了したためしがない【薬・男】
- 無意味な授業だった。しかも英語だからサボれない。【工・男】
- メモを見ると減点するなどの意味不明な制限を課した英語でのプレゼンを求め、レポート用紙のサイズや記法及びホチキスの場所などを、出そうとしたその場で言われ、基準を満たしていないものは受け付けないなどと言われた。このことをはじめとして、その場で決めたことをさも前から言っていたかのように発言することが多く、多くの生徒が困惑した。レポートの良い悪いの基準も非常に曖昧で、理解不能な点が多かった。【工・男】
- 前期と全く同じ授業の進め方で工夫がなかった。【工・男】
- 予習、復習の課題の量が多すぎて授業についていけなかった【工・男】
- 担当教員が題材に用いる話があまり良くなかった。【工・女】
- 授業中、発表に詰まった時の対応が、生徒によって異なっているように感じた。（特に女子に甘かった）【農・男】

■現社群科目

- TA の態度が悪かった【法・男】
- 受けても意味がない授業ばかりだった【医・男】
- パワーポイントのスライドを淡々と説明していくだけで、学生の理解を促している様子はあまり見られなかった。【工・男】
- 課題についてのより詳しい説明をして頂きたかったことと、課題の提出期限を PANDA に表示するだけでなく、授業中に口頭で連絡して頂きたかった。【工・男】
- 授業が一方向的であった(人数が少ないにも関わらず)【総人・男】

■拡大群科目

- シラバスに書かれている内容に惹かれて受講を希望したが、あまりにかけ離れた授業をされたので、詐欺にあった気分させられた。1回生の半期しか受けることを許されないポケットゼミにこのようなことがあってはならないと思う。【文・女】
- 同じ内容が何度も繰り返されていた【法・女】
- 怪我で休んだ事を担当教員に伝えたのに、不可にされたから。【理・男】

4 全学共通科目への期待

問4 あなたは入学当初、京都大学の全学共通科目に対して、次の各項目をそれぞれの程度期待していましたか。

	どちらかといえば		どちらかといえば	
	期待していた	期待していた	期待していなかった	期待していなかった
A. 専門以外の幅広い知識・教養	1	2	3	4
B. 専門での勉強の基礎	1	2	3	4
C. 実用的な知識・技能	1	2	3	4
D. 教員との交流	1	2	3	4
E. 学生同士の交流	1	2	3	4
F. 自分の研究分野の決定の手掛かり	1	2	3	4
G. 自分の研究内容へのヒントや刺激	1	2	3	4

4. 1 全学共通科目に期待する内容

全体（**図 4-1-1** を参照）で、「期待していた」と「どちらかといえば期待していた」を合わせた数字を見ると、もっとも多かったのは、「専門以外での幅広い知識・教養」であり、次いで多かったのは「専門での勉強の基礎」であった。「教員との交流」はもっとも少なかった。理系では、「専門以外での幅広い知識・教養」「専門での勉強の基礎」が同程度の高い期待を示していた（**図 4-1-2** を参照）。

「期待していた」を4点、「期待していなかった」を1点に逆転させて平均点を算出し、2005-2014年の経年変化（全体）を見ると（**図 4-1-3** を参照）、全体では2014年は得点を落としている項目の多いことがわかる。この傾向は、文系での「専門での勉強の基礎」「自分の研究内容へのヒントや刺激」「自分の研究分野の決定の手掛かり」「教員との交流」において顕著である（**図 4-1-4** を参照）。

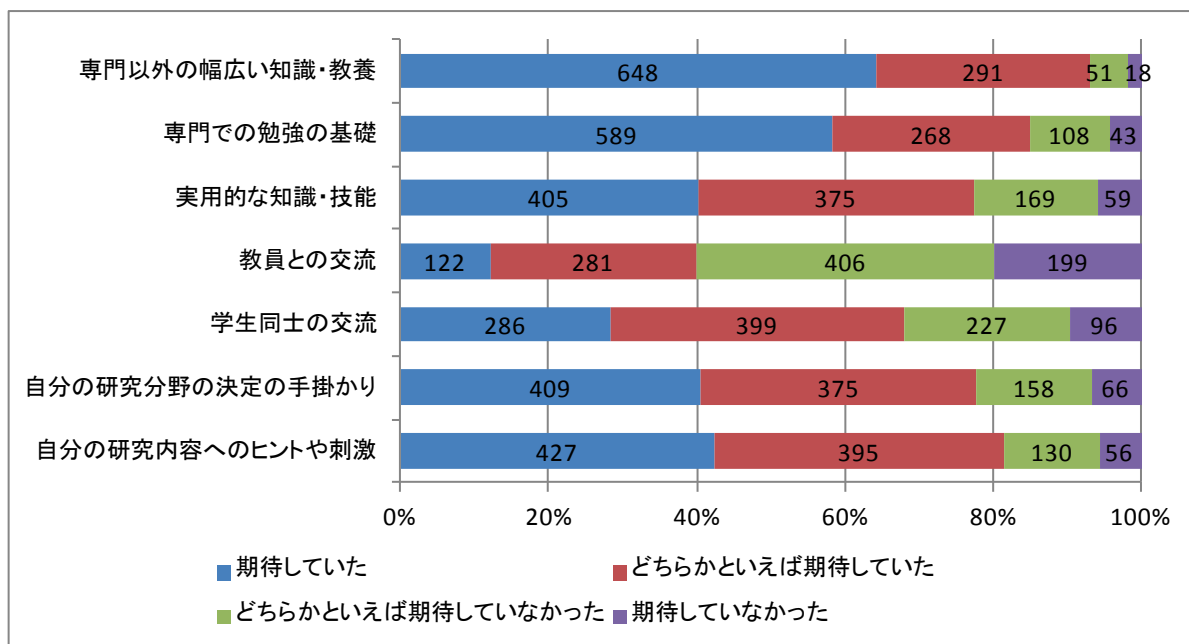


図 4-1-1 全学共通科目に期待する内容（2014年）（全体）

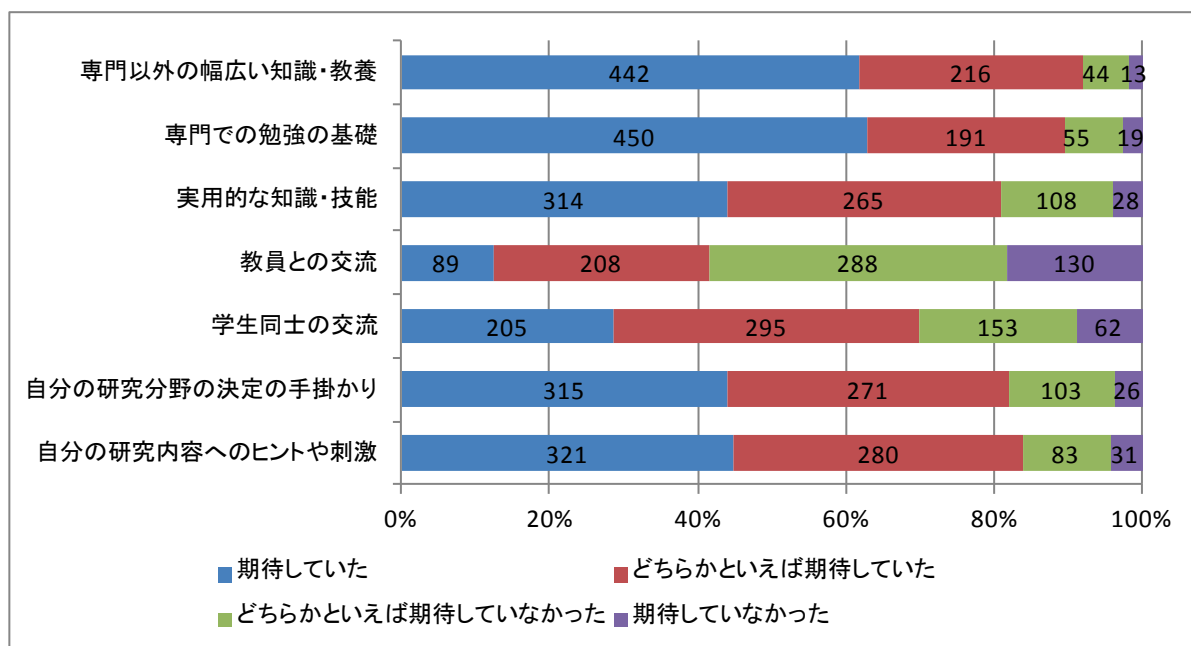
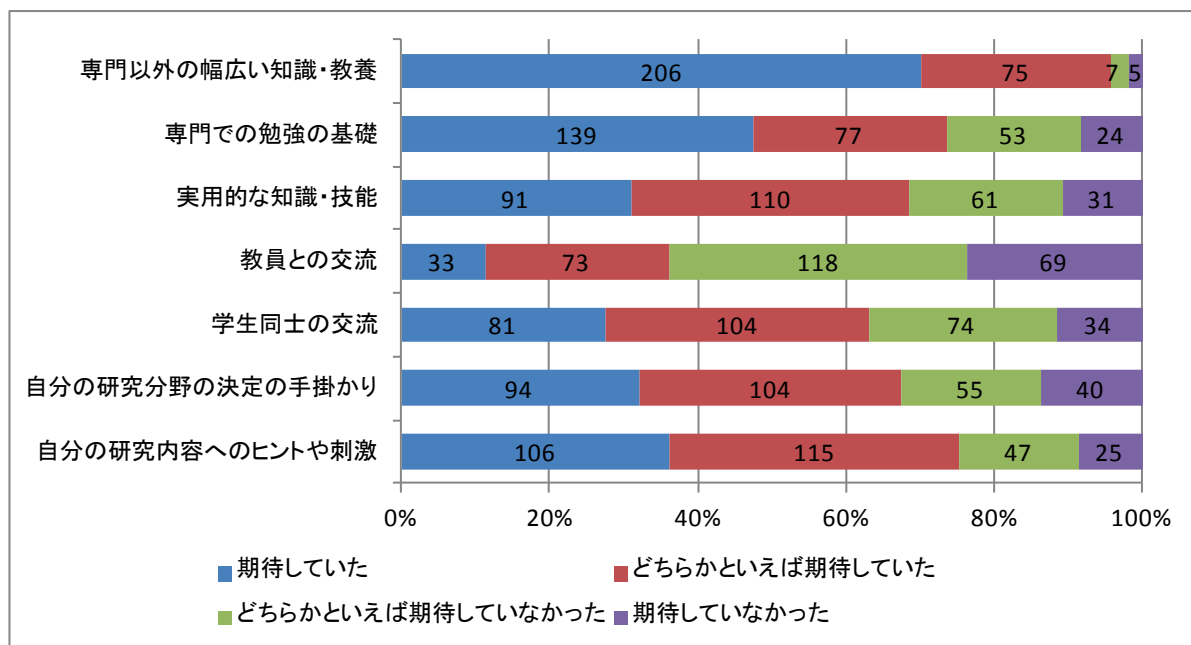


図 4-1-2 全学共通科目に期待する内容 (2014 年) (上 : 文系 下 : 理系)

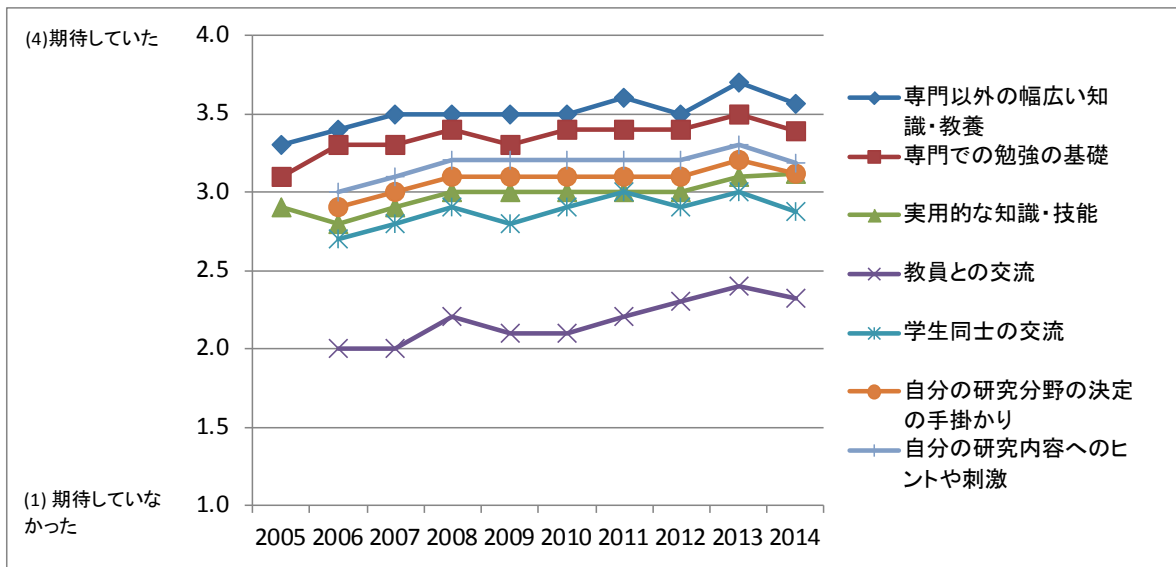


図 4-1-3 全学共通科目に期待する内容 (2005-2014年) (全体)

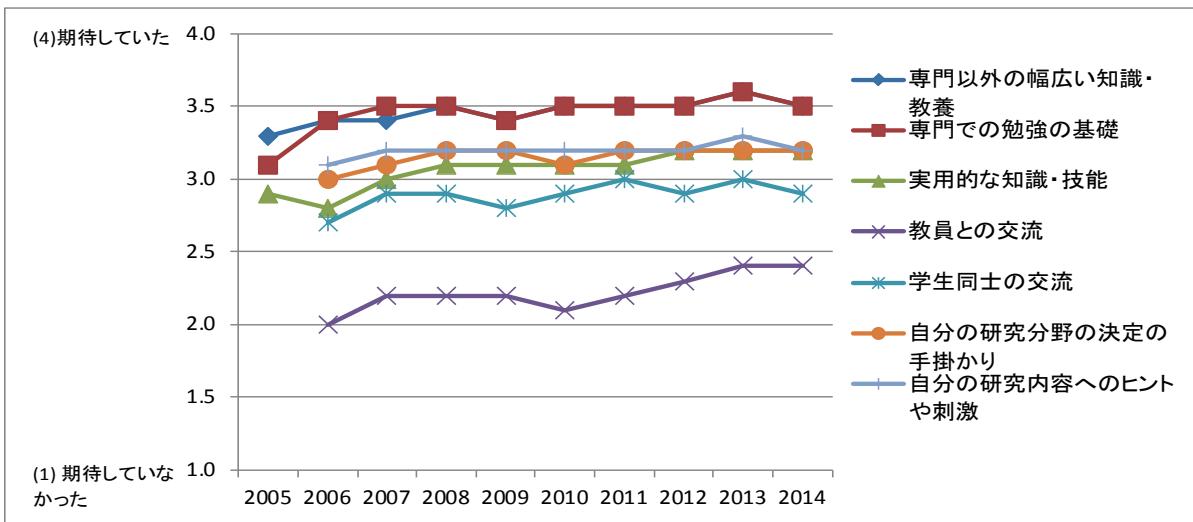
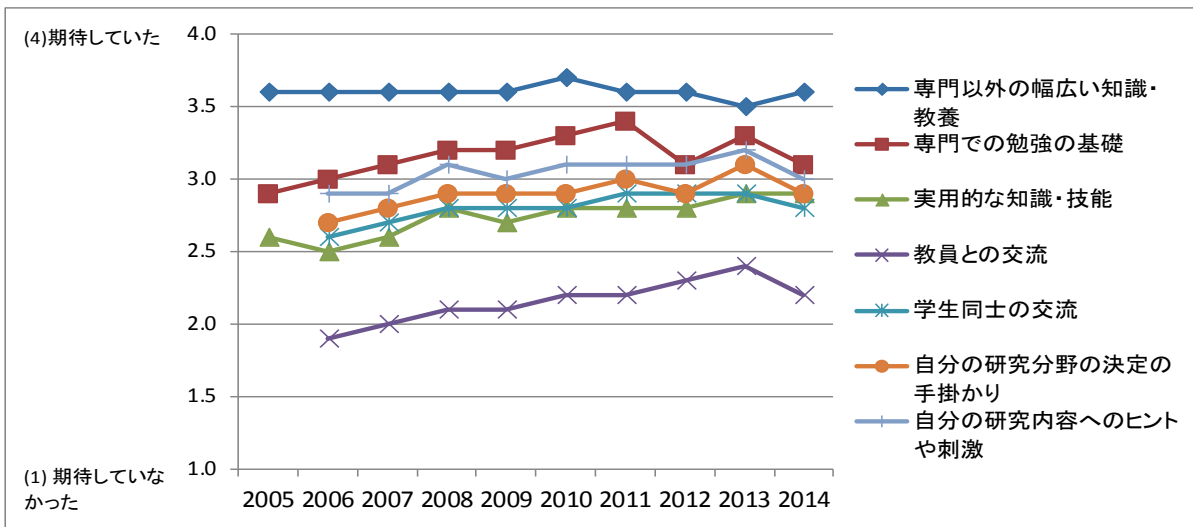


図 4-1-4 全学共通科目に期待する内容 (2005-2014年) (上：文系 下：理系)

5 期待は実現されたか

問5 全体として、あなたが全学共通科目に対して抱いていた期待は実現されましたか。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 実現された | 2 どちらかといえば実現された |
| 3 どちらかといえば実現されなかった | 4 実現されなかった |

5. 1 全学共通科目への期待は実現されたか

全体（**図 5-1-1** を参照）を見ると、「実現された」と「どちらかといえば実現された」を合わせて 63%の者が、全学共通科目に対して抱いていた期待が実現されたと回答している。文系・理系の差はほとんど見られない（**図 5-1-2** を参照）。「実現された」を 4 点、「実現されなかった」を 1 点に逆転させて平均点を算出し、2005-2014 年の経年変化（全体）を見ると（**図 5-1-3** を参照）、2014 年は期待の実現の程度が若干上昇していると見て取れる。

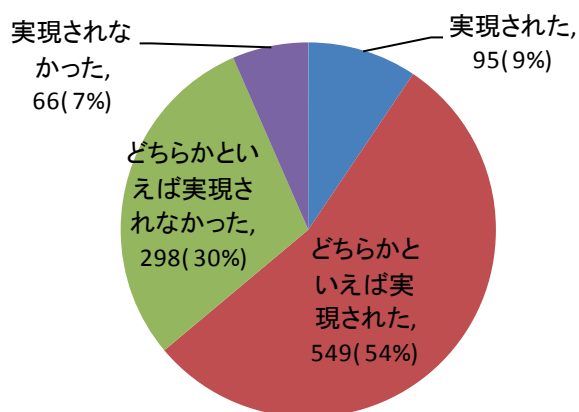


図 5-1-1 全学共通科目への期待は実現されたか（2014 年）（全体）

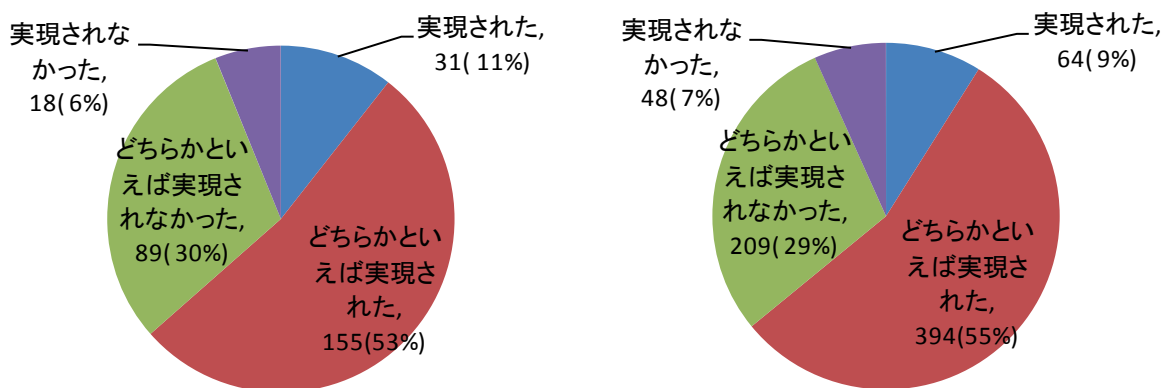


図 5-1-2 全学共通科目への期待は実現されたか (2014年) (左：文系 右：理系)

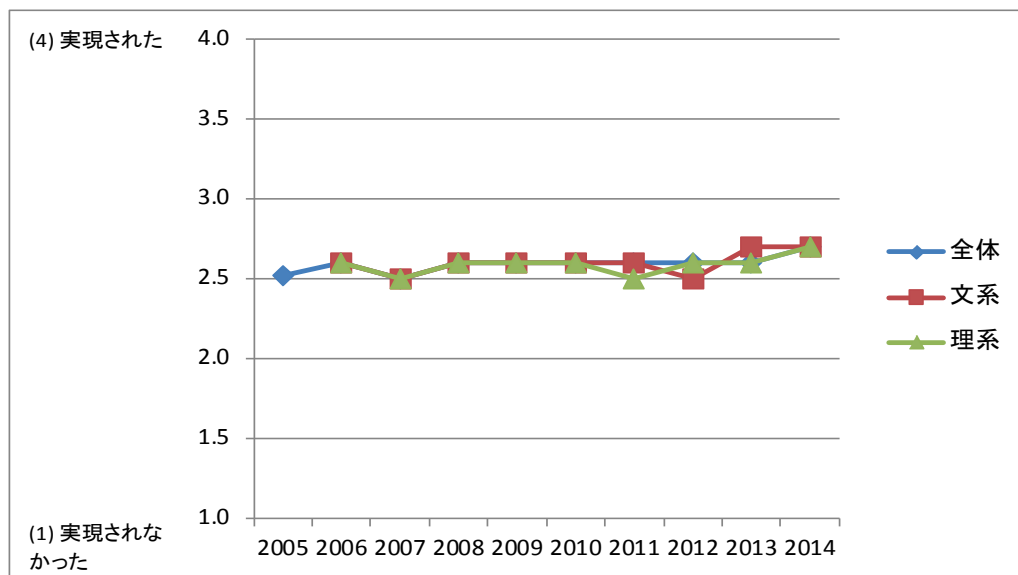


図 5-1-3 全学共通科目への期待は実現されたか (2005-2014年)

6 今後の全学共通科目への要望

問6 今後の全学共通科目に対して、どのような改善を要望しますか。あてはまるすべてのものすべてに□チェックをつけ、最も重要なもの1つを選択してください。

- 1 特に要望はない
 - 2 学生の関心により対応した内容の授業をしてほしい
 - 3 学生の予備知識や理解度をもっと考慮してほしい
 - 4 授業の進め方をもっと工夫してほしい
 - 5 授業にもっと熱意をもってほしい
 - 6 学生とのコミュニケーションをもっととってほしい
 - 7 成績評価の基準・方法をもっと明確にしてほしい
 - 8 教室環境（設備・広さなど）を改善してほしい
 - 9 その他（自由記述）
- 上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～9から選択）

6. 1 項目別集計

全体（図6-1-1を参照）を見ると、「要望なし」がもっとも多く、次いで多かったのは「学生の関心により対応した内容の授業」「学生の予備知識や理解度を考慮」であった。理系ではこの傾向がとくに認められ（図6-1-2を参照）、文系ではそれに加えて、「成績評価の基準・方法を明確に」も多く見られた。

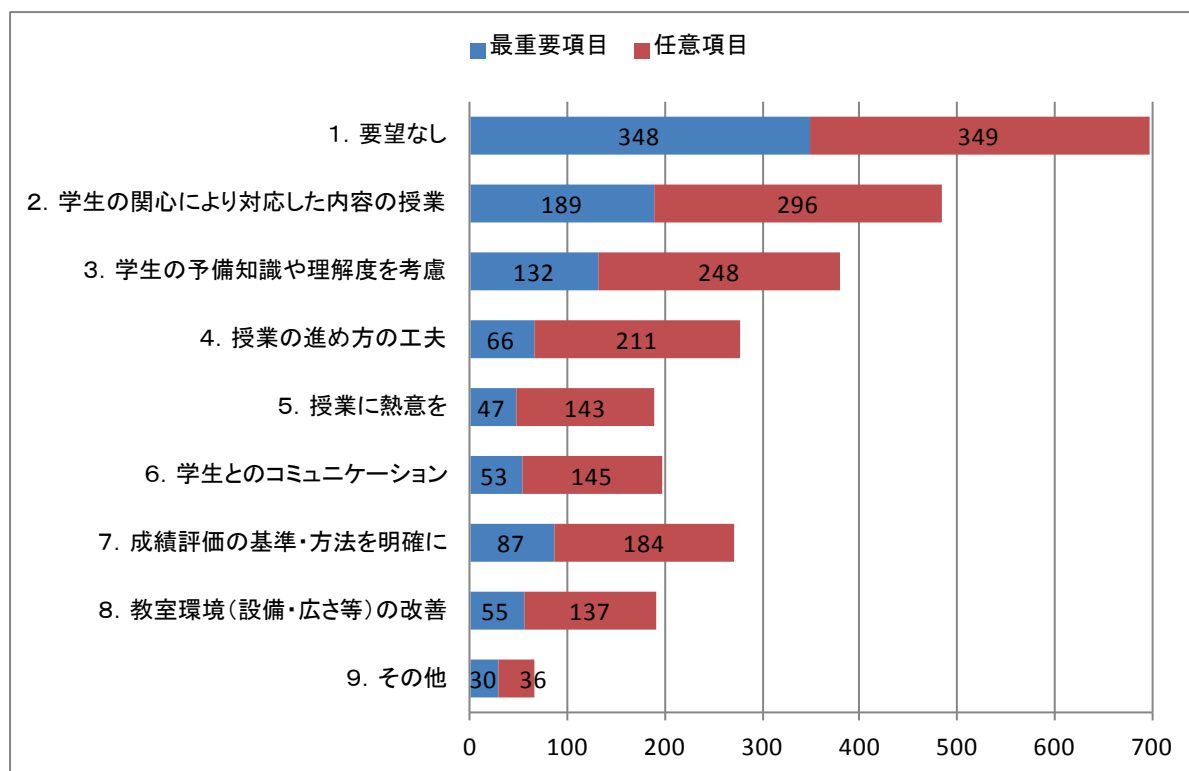


図6-1-1 今後の全学共通科目に対する改善の要望（全体）

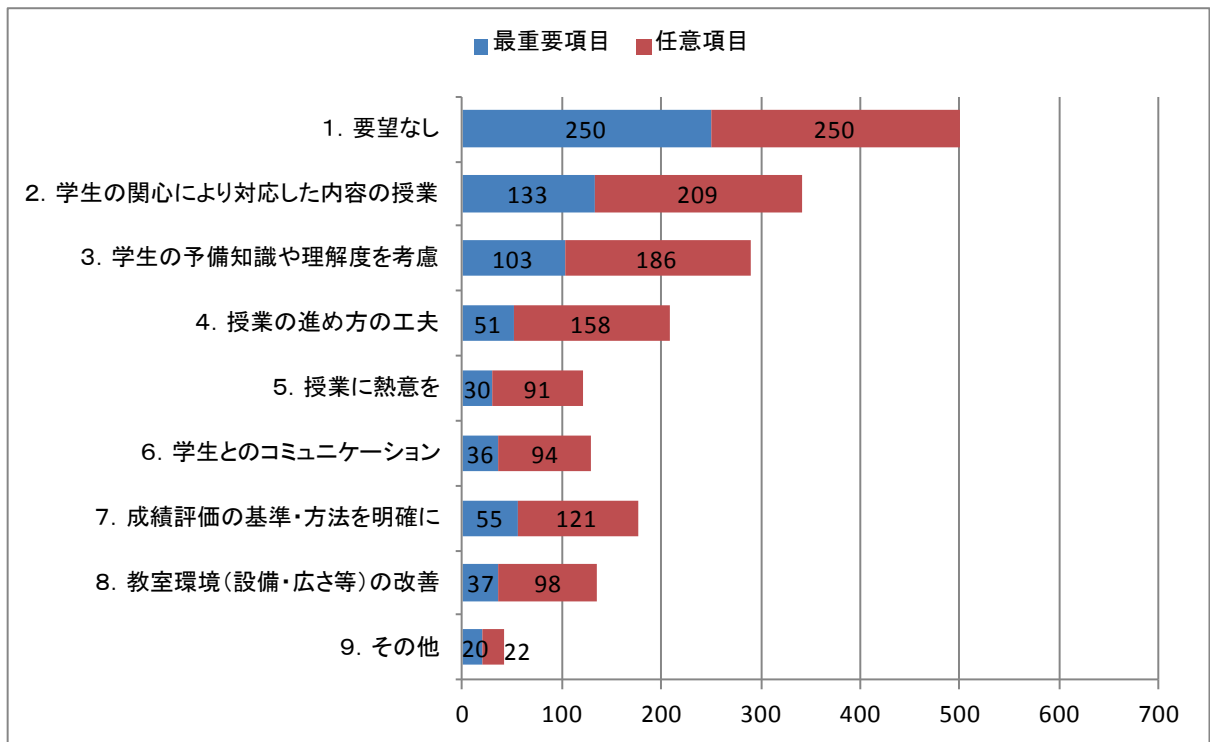
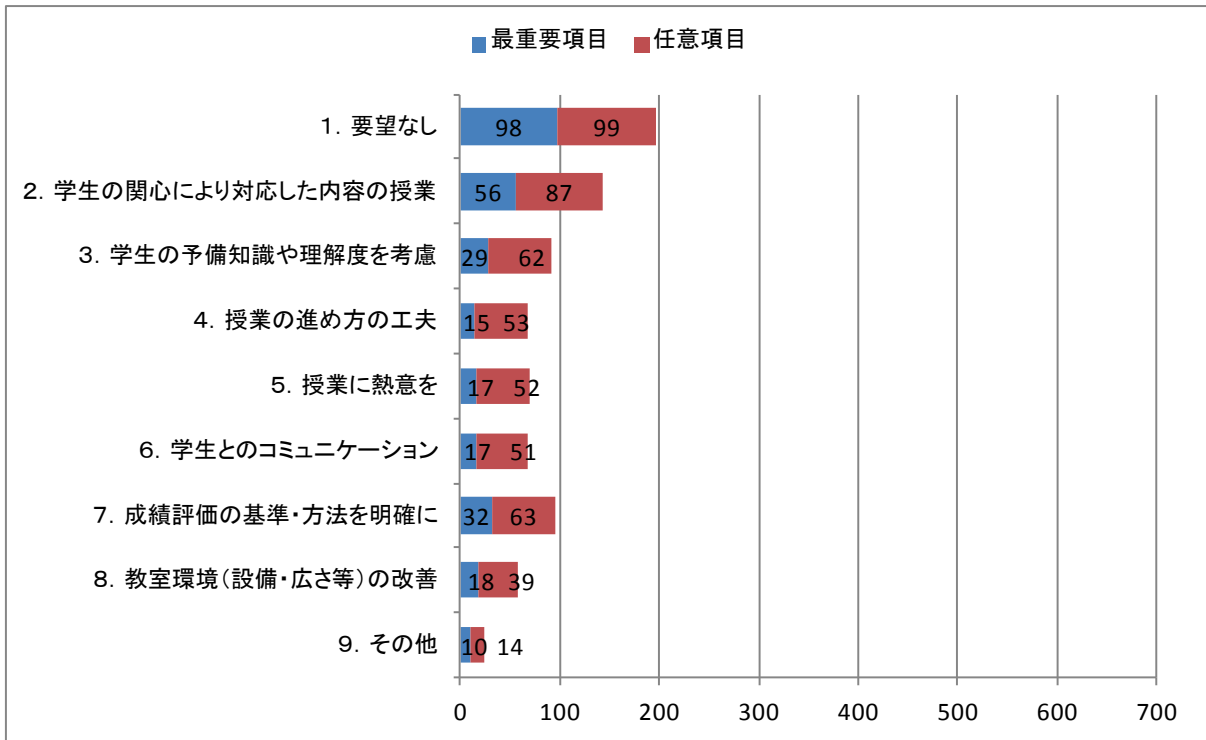


図 6-1-2 今後の全学共通科目に対する改善の要望（上：文系 下：理系）

6. 2 「改善の要望：その他」の記述内容

末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。なお、修正を加えず、誤字・脱字もそのまま記載している。

- 学習意欲のない学生及び「楽勝単位（単位取得が容易な科目）」を排除してほしい【文・男】
- もっと学生のモチベーションが高まるような授業をしてほしい【文・男】
- 履修制限は不要ではないか？ 興味ある教科をとれないということが往々にしてあった。【文・男】
- 配布されたレジュメを見れば事足りりとなるような授業は改善してほしい。折角の講義がもったいない。【文・男】
- 抽選は、その授業の内容を将来専攻するような人を優先してほしい【文・男】
- 後期にも面白い授業を開講してほしい。前期にかたまっている印象を受けた。【文・女】
- どうしても学びたい科目を履修できないことがあるので抽選科目をなくしてほしい【教・女】
- 時間割の考慮【教・女】
- 科目のとり方が難しい。とりたい科目が取れない。【法・男】
- 強引な国際化をやめてほしい【法・男】
- もっと色々な講義を受けてみたかった(履修制限やキャップ制に納得がいかなかった【法・男】
- とりあえず楽しんで単位が欲しいです【法・男】
- 学生同士のコミュニケーションをもっととりたい。【経・男】
- 曜時間の重複により履修できない科目を減らすため、6時限,土曜日の開講など【理・男】
- 単位取得のみを目的とした意識の低い学生を排除してほしい。【理・男】
- 哲学や経済学をとりたかったけど、時間割が埋まっていて取れなかった。結果、時間割に合うような、あまり興味のない科目をとることになった。【理・男】
- 取りたい授業がクラス指定科目と被ったり、抽選で落選したりで取れないようなことがないようにしてほしい。【理・男】
- 単位至上主義と感じられるような説明や授業はやめてほしい【理・女】
- 文系科目や、クラス指定以外で他の学生さんと仲良くなりたくても顔見知りがないしどうやればいいのかわからない。【理・女】
- 全学共通科目の自然群や人社群を減らして英語ばかりにするのをやめてほしい【医・男】
- 語学の選択をラテン語とアラビア語を入れて欲しい【医・女】
- 学部間の垣根を越えた交流があるようなカリキュラムにしてほしい【薬・男】
- 学生が楽単だとか言って登録するせいで興味があっても参加できない授業が発生するのが極めて不愉快であるので、どうにかするよう努力してほしい。また、アンケートのようなどうでもいい連絡ばかりはしっかりと送りつけるくせに、重要な連絡が不十分にも程があるのはふざけているとしか思えないのでどうにかしてほしい。【薬・男】
- 成績評価・コース分属の基準をもっと公正にしてほしい。先生によって偏りが生じすぎている。【工・男】
- 板書の字の大きさを考えてほしい【工・男】
- 学生同士が議論しあえるような講義をもっと提供してほしい【工・男】
- 「これぞ京大」と言えるような発想の起点や面白みを与える授業が欲しい【工・男】
- 抽選システムの改善【工・男】
- 抽選で選ぶのをやめてほしい。【工・男】

- 単位の取得基準が厳しすぎる科目があるので改善してほしい【工・男】
- 京都のことをもっと知りたい。【工・男】
- 何を教えるべきで、何を自学させるべきなのか。【工・男】
- 理系向けの歴史などの講義【工・女】
- 4共のいくつかの講義室のクーラーが機能していなくて夏は耐えられないほどに暑いので、なんとかしてほしい。【農・男】
- 1年から専門科目を増やすべきだと思います。【農・男】
- 教える気もないような時間の無駄みたいな講義をしておいて、出席しなければ単位をくれな
いといった理不尽な状況をなくしてほしい【総人・男】

7 自由記述

問7 あなたは、1年間全学共通科目を受講して、どんなことを感じ、どんなことを考えましたか。自由にお書きください（たとえば、勉強における悩みや不満、その解決策、あるいは楽しさ・感動など、何でも結構です）。

学部別に、記述内容を掲載する。○は男子学生、◎は女子学生の回答である。

なお、修正を加えず、誤字・脱字もそのまま記載している。

7. 1 総合人間学部

- 全学共通科目は、総じて無意味な授業ばかりで、教員は、学生に物事を教えようという姿勢がなくなっておらず、ただただ自分の教えようとする内容を、垂れ流すように語るばかりで、なんの興味もひかれない無駄な時間を学生に強いていた。無意味な時間に行っているのは、当然学生の受講態度にも問題があるだろうが、教員の授業に対する姿勢が、学生のやる気や興味関心を大幅に削いでいるということに早く気付いてもらいたい。そもそも教える気がないように思われる無意味な講義を続けるというのなら、せめて単位だけでも、学生に無条件で配布すべきである
- 様々な分野に触れられて楽しかったです。
- 学問にはスケールはあっても優越はない
- 感動するような素晴らしい内容の講義もあれば、その真逆の講義もありました。なので、履修登録で科目選びを失敗しないように細心の注意を払わねばならないと感じました。
- 大学における学問のあり方を学べ、来年度以降のモチベーションが上がった
- もともとはそれほど興味がなかった様々な分野に関心を持つことができた。どの分野を専攻しようか迷う…。しかもサークルが忙しく、両立しにくい。
- キャンプなどで縛られて興味がありそうな科目がとれなかったのが悔やまれる。内容はとても面白いと思うのに、教授が不熱心だったために授業に主体的に取り組めなかったのが残念だった。
- 今まで触れてこなかっただけで、自分の興味のある分野はまだまだ他にも存在するということ。
- 京都大学の教員は学部教育に意欲的ではないという噂は高校まで広まっているがそれが本当だと思知らされた。しかしそれは授業を見ている限り、大半は生徒側の問題で、授業に参加であることが原因だった。
- 大学では教授も生徒も興味の赴くままに進んでいけばよいのだなあと感じました。
- 全学共通科目を受講して、自分の興味・関心のあるものが何かがある程度わかるようになってきた。
- 初めての経験がいっぱいできて良かったです。
- ◎入学前は自分の専門以外でも幅広い知識を得たいと思っていましたが、いざ様々な分野の授業を受けてみると、今まで好きでなかった分野はやはり好きにはなれませんでした。でも好きな分野の勉強に関しては、今まで以上に高い関心を持って取り組めたと思います。
- ◎自分の興味のある授業はやっぱり楽しいです。

- ◎身になる授業とそうでない授業の差が大きかった。
- ◎履修人数制限に引っかかり、興味のある授業が取れなくて悔しかった。
また、取りたいと思って初回の授業に行っても、教室に入りきれなくて早々に諦めて他の授業に変えてしまったことが多々ある。人数制限の制度を何とかしてほしいと思った。
- ◎休講をするときは、前日までに連絡をして欲しいです。

7. 2 文学部

- 単位を取ることに執着していたのが良くなかった
- 高度な雑学を身につけていく感じでした。
- 何がやりたいのか全くわからなくなった
- むなしさばかりが残った。どうすればよいのか何もわからなかった。放任したいのか拘束したいのかよくわからず、大学というものに失望を覚えた。もう外に期待するのはやめようと思う。
- 自分が（もともと将来の専門分野にしたいと考えているような）深い関心を持っている分野の科目に関しては特にそうは感じなかったが、教養程度に考えている分野の科目に関しては、講義の内容に少々敷居の高さを感じるものもあった。
- 面白い授業もあり、つまらない授業もあった。
- 多様な学問の研究内容を知ることができ、世の中の様々な事象に対して興味がわいた。
- もっとすごいのかと思っていたが、まあこのぐらいか、と思った。
- 学生が書いた冊子等により、いわゆる楽勝科目と呼ばれる授業が周知されることで人数制限がかかり、実際に受けたい人が受けられない状況にはうんざりしました。だからといってそのような冊子が悪いと言いたいのではなく、あくまで学生の態度の問題だと思っています。ここに書いても仕方がないことですし改善を期待している訳でもないですが。
- 以下は問6の回答に続くものであるが、志望分野によらない広い教養をより多く得るためにも、科目毎の群分類や履修科目数上限を撤廃し、科目選択のいっそうの自由を実現してほしい。
- 早く専門の勉強をしたいと思った
- 授業を単なる「お話」として聞く分には楽しいが、それがたとえ将来学部で専門にできる分野に関するものであっても研究に携わろうとは思えなかった。
また自分の受けていた授業だけかもしれないが、出席している学生はほとんど皆積極性がなく、教員が全体に発言を求めても反応せず個別に当てられてはじめて発言する、という者ばかりだった。そのため授業の雰囲気は悪く、教員が勝手に喋っているだけと言っても差し支えないものもあった。
- 教員の方との出会いが何より貴重な財産になったと思う。
- つまらない。ただ単位をとるために惰性でとっていた。熱意のある教員も少ない。
存在価値はない。(例外あり)
- 多くの学生は途中から授業に出なくなるので、学期はじめでの履修制限は不要であると感じました。学期半ばで、生徒が減ったそのうえでさらにどうしても必要であったらするぐらいでいいと思う。
- ◎自分の進みたい専攻が決められてよかった。
- ◎なぜか点数が低かった。
- ◎あまり興味のないものでも、指定された単位のためにとらなくてはいけないのは大変でした。

- 総じて全学共通科目では様々なことを学ぶことができました。民俗学の講義・ポケゼミのおかげで町を歩く時の着目点が変わり、友人との交流の際にも様々な話ができるようになりました。また「聞き書き」という民俗学的手法は、普段の授業での教員の話から、当時の京大の姿に思いをはせることに役立っています。数学史の授業を通じて、自分の興味関心の在りかや適性について考えることができました。また経済学の授業で学んだ学問に対する姿勢は、自分の希望する学問分野に対する根源的な問いについて考える上で大きな影響を受けています。また健康科学からは私生活を内省する良い機会になりました。このように全学共通科目で学んだことから、私は自分の私生活や学問態度に大きな影響を受けました。これらのことから私は、専門科目が公的空間において役立つのだとすれば、全学共通科目は私的空間において役立つのではないかと思います。そして公的空間も私的空間も、人間にとって重要な場であることは言うまでもありません。従って、専門科目だけでなく、全学共通科目も非常に重要であると思います。
- 海外でフィールドワークを行っている教授の話などは興味深いものであったが、全学共通科目全般としては関心の持てるものは少なく、得られるものもそれほど多くはなかったように思える。
- ◎理系教科を文系向きの視点から学んだりすることで、難しい要素だけではなく文系科目とは別の頭の使い方や視点を学んだ。また、高校までの勉強とは全く異なることが学べて非常に楽しかった。
- ◎どのような授業をとった方がいいか、最初全くわからなかったが、詳細を読んでみると、授業のポイントがわかり、自分がその授業のために、何を準備しておけるか、把握でき、授業の流れに追いついた。
- ◎受講した科目全般に当てはまることとしては、授業を通して高校まで接してきた考え方とは違う考え方に触れることができた、というだけで新鮮だった。ゼミ形式の授業では、発表でほかの学生考えていることがしれて興味深かった。
- ◎自分でわかっているんだかわかってないんだかわからない。
興味のある、面白い授業だととても楽しいが、あまり興味のない内容だと90分が苦痛になってしまうので、授業をする教員側も受け手である生徒側も楽しい授業になるように工夫すべきだと思う。
- ◎学部にとらわれることなく、幅広い分野のことを学ぶことができ、とても良かったと感じました。
- ◎学部を超えて、何でも学べる全学共通はすごく楽しかった。文系に所属しながら理系の化学や生物、医学の内容を、それらを専門としている先生方から生で聞いたのがすごくよかった。
- ◎勉強しなくても単位は取れる。
- ◎入学当初から自分の専攻を何となく決めていたため、一回生のうちから専門科目に専念できないのははじめ少し不満だったが、全学共通科目を履修していくうちに、新しい分野に興味を持ち、専攻科目の方向性も変わっていった。1回生の時に幅広い学問分野に接することができたのは、結果的によいことだったと思う。
- ◎自分の興味の方向が定まってくるきっかけとなったので満足です。
- ◎教養がふかめられました
- ◎全学共通科目は専門とは異なる位置づけをしたいと思い、自分が進みたい方向とはかけ離れた、物理や化学、社会学というような講義を多くとって見たが、結果として自分の好奇心が刺激されて、楽しく学ぶことができたのではないかと思います。
いろいろな学部の人意見を聞くことができるのも面白かった。

- ◎いろいろな授業から研究内容を少しずつのぞきみて、学生と交流し、先生の思いを聞きました。楽しかったです。
- ◎学生の関心や予備知識に、配慮しすぎる必要はない。
- ◎教養は大事だと感じた。
- ◎違う分野の授業でも根本的に同じことを言っているとわかった時感動しました。いろいろな場面でアブダクションできるようになりたいです。
- ◎教員の専門の話は、その分野を初めて知るものにとっては理解できないことも多かったのですが、どの学生でも理解しやすいように体系的に授業をしてほしい。

7. 3 教育学部

- 独学した方がマシ
- 後期になるにつれて前期はどうしてこんなことを勉強しなければならないのかと考えていたことがこれからの勉強に向けて重要であると考えを改めるようになった。
- ※※語の成績評価基準が前期後期合わせて3回変更になりました。むやみに易化する必要はないと思いました。
上のことを除けば、私が受講した科目のすべてにおいて、先生方は熱意あふれる授業をしてくれました。特に、人文社会系の科目は自分の将来を決定する上で大きな助けとなりました。
- 自分の興味の有無で受けるときの集中力が違うなと改めて思った
- 大学の先生は怖いイメージがあったけど、優しい先生もいた。
- 前期は〇〇先生の※※をはじめ、教師側に熱意がなく授業に出る意義を感じられないものもいくつかありましたが、後期の授業は自分のためになりそうな科目ばかりを履修しましたので、課題等は非常に大変でしたが、とても意義があり自分のためになりました。
- 全学共通科目は、大学にはこんな研究をしている教員もいるんだと気付くために受講するのだと思った。さまざまなもの見方に対して少しだけ寛容になった気がする。次年度から専門科目と教職科目が大半になってしまうのがやや残念だ。
- 思ったより単位がとりやすかった。
- 普段自主的にはなかなか学ばない知識を授業を通して学ぶことができ良かったと思う。
自分の専門とは全く違う科目であっても、毎回楽しみにしている授業もあり、自分が興味を持つ分野の範囲が広がった。
- 受講する学生の温度差がとてとても気になった。
- 大変多くの刺激をもらい、自分の進路決めに大いに影響した。
- 直感的に選んだ全学共通科目の履修を通して、自分の新たな興味、潜在的な関心、今後の学びの方向性などが固まってきた気がしています。

7. 4 法学部

- 入学当初、大学は専門科目を学ぶ場であるから、全学共通科目は必要ないと考えていました。
しかし、教養科目を受講してみると、法学に限らず、宗教学等の分野の知識を得、様々な学問の世界とその分野の楽しみを知ることができました。1年を通して、専門だけやっていたのではしばしば狭くなってしまいう視野を、多少なりとも広げることができたと思います。
- 浅く広くだなと感じた
- もう少し出席すべきであった

- 大学の授業というものは、それを教えてくださる教授が専門的に研究されている分野であるため、良い点・良くない点それぞれ1つずつはあると感じました。私を感じた良い点というのは、専門性の高さから、それまでの教育課程では到底得られなかったであろう知識や考え方が得られるという点です。良くない点というのは、専門性の高さゆえに、内容を理解しにくかったり、自分の中で情報が氾濫してしまったりしやすいという点です。ただ、全体的には興味深い内容でしたので、私は満足しています。
- 大学にこそ学問があると期待し必死に勉強して入学したが、全学共通科目の講義内容のレベルの低さ、そして何よりも教授のやる気のなさに肩すかしをくらった。
- 早く専門の勉強がしたかった。
- 当初想定していたよりも世界観は確実に広がったものの、同時に今はその広がり戸惑っている
- 授業そのものはそこまで悪いものでないが、もっと緊張感があってもよいと思った。
法学部基礎演習は法学部提供の般教だが、一番ためになったと思う
- 全学共通科目は我々学生が社会に出たときに非常に意味のあるものだと感じた。例えば、自然科学である。私は法学部の学生だが法学部出身者が自然科学に全く無頓着だと非常に深刻な問題が発生する。その一番わかりやすい例が東日本大震災であったかと思う。当然国家の中枢には文系がかなりの割合で存在するが、その自然科学に対する興味、知識は果たしていかほどのものであっただろうか？我々学生はそのことを肝に銘じなければならぬだろう。そして忘れてはならないのは語学の重要性である。これからの世界はおそらくさらにグローバル化が進み、語学はもはや必要条件になるであろう。さて、京都大学の語学教育に関してだが正直私は全く期待していなかった。英語にしても高校までほとんど完成させていたし、第二外国語にしても「所詮大学から語学を始めたところで意味はない」と考えていたためである。一年が終了して、その考えの半分が誤りで、もう半分が正しかったことが分かった。第二外国語については認識を改めたいと思う。語学は早いうちに始めるに越したことはない。これは一つの真理である。ただ、するに越したことはない。それもまた真理である。私にとって一回生での中国語は非常に意味があったといえる。しかし、もう半分、英語に関しては失望した。
- 京大のちいいいいいいいい
- 教養が深まった。
- いろいろな講義を選択できるという点は非常に良いと思った。学部の方針にもよるのだろうが、僕はそのように思った。
- 時間割に関していえば、前期は「行き当たりばったり」に、後期はどちらかと言えば「熟慮して」考え組みましたが、今もって思えば、行き当たりばったりで組んだ前期の方が授業に対する自分自身の「食いつき」はよかったと思います。
これはモチベーションが前期より後期では下がったことを否定しきれない点がありますが、後期の時間割では「シラバスを熟読して組んだのに全然期待通りでない」こともありました。教員の面白さ、熱心さはシラバスの書き方にも大きく関与すると思います。そういった点で、上記「満足した科目」に選んだ科目はほとんどがシラバスの書き方も工夫されていました。入学したての1回生からしてみれば授業を選ぶ基準は限られており、シラバスは最も量の豊富な情報源です。各授業の担当の先生方がシラバスの書き方をもっと工夫すれば（つまりは授業についてもっと回顧し準備すれば）受講者の興味関心により応じることができるのではないかと思います。
- まだまだ教養が足りないと感じた。

- 専門以外のことを学べて楽しかったこと
- 全学共通科目に興味を持つのが難しいので、なるべく実生活に関連するように講義内容を結び付けると良いかと思いました。
- 実践的でないような気がした。
- 休学も踏まえた上で長期間、カンボジアでの少女売春問題改善に取り組む NGO の活動に参加したい。
 19歳の自惚れでもよし。僕は長年のボーイスカウトで培った技術と経験、そして周りの奇抜な大人達から受け続けた刺激のために、何をするにも抵抗が全くない。そこに裏打されたバイタリティーを、部活やバックパック旅行や野宿やサイクリングだけで消費するのはもったいない。それらが無駄だったとは思わないが、短過ぎるモラトリアムで何をなせるのか考えれば、現状には焦燥と不安と恐怖しか感じない。
 僕は、現場で優秀な人材がどのように計画を立てて遂行して行くのかを学びたい。スリルのある環境で実践的な技術を経験的に得たい。
 カンボジア／少女売春というのは、この目標を達成させるための強い動機付けの材料に過ぎないのではとも思うが、利他主義を否定しながら仕事をしてきた自分は、真なる意味で利他的になれるのかも見極めたい。
 だからこのテーマを選んだ。
- 自分と全く関わりの無かった分野について学べて有意義だった。
- 全学共通科目を軽視している学生も見受けられますが、しっかりと講義を受講すれば学ぶことのできることは多く、大変意義のある科目が多いと感じます。
- 自然群の授業を通して将来の方向性を見つけられた。
- 全学共通科目はシラバスと講座の内容が違っていたことがあり、受講の意欲をなくしてしまうことがありました。
- どんなに良い授業をしても、生徒自身がだれてしまったら意味がないので、2回生からは意識を高く持っていきたい
- 教養科目で学んだことが専門科目を理解する上でも役に立っていると思う。
- 法学部に入ったやつは全員法律を学びに来た、という固定概念を捨てて欲しい
 政治学を学びに来た人間にとって害悪でしかない
- 高校までの勉強では決して得られない様々な発見が心に残っている。教員の方々も個性に溢れ、熱心に教えておられた方が多かった。ただ僕自身が能動的に授業に参加できていたと言いはし難かったので、せつかく京都大学で学ぶ機会が得られた以上、今年はずっと食欲にいろいな教養を身につけていきたいと思った。
- 世の中には自分の知らない世界がまだまだたくさんあるとわかり感動した。
- 自分が如何に意見をアウトプットできないかを痛感させられました。
- 制度上の様々な制約のために受けたい授業が受けられず残念
- 中学3年生から所属していた新興宗教（〇〇系）が、私が大学に入ったことを契機に、この1年間さらに不当に扱われ、精神的に困窮し、この1年は授業どころではなかったの、コメントできない。今は、その宗教を母と退転した為、教義上の奴婢となって侍者に使えるという必要もなくなったので、自由になり、1年間の遅れを取り戻そうと思っている。
- 自分が興味を持って履修した講義は面白くやりがいもあり、大学に来てよかったと感じました。ただその分面白くない講義に当たったときの失望感が半端ではなく、単位のためだけに行かざるを得ない状況が続いたのは苦痛でした。
 願わくば2回生以降でとる講義が僕にとって面白いと感じるものであればいいと思います。

- 単位を取るの難しいということ。
- 特に感じたことはなかったが、幅広い知識はある程度身についたのではないかと思う。特に、教員の熱意が感じられるものは楽しんで受講することが出来た。
- 興味深い内容を教える教員もいたが、あまり学生に理解してもらおうという気持ちがない教員も多かった。
しかし、大学の教員は高校の教員とは性質が異なる（大学の教員は研究が第一、高校の教員は教育が第一なのかなと僕は思っている）ので、それはそれではないかと思う。
- レジメが見にくかったり、板書が取りづらいことがあった。
- 高校までに学んだことの大半は使わなかったので、自分は今まで何のためにあんなに努力してベクトルとか勉強していたのか疑問に思った。
- 英語は、もっと生徒の実力にあったレベルのものにしたほうが、生徒も教師もやる気が出るのではないかと思った。
- 専門範囲でない科目を幅広く選択することができ、存在すら知らない世界を垣間見たり、興味の幅を広げることができてよかったと思う。どんな分野でも楽しかった。
- 高校とは全く異なる授業内容で、総じて楽しむことができた。
- KUINEPの講義の敷居をより低くしてもたえたら嬉しい。
- 様々な分野の中でも特に進んだ研究をしている先生の話に触れて、とても興味深かった。
- 興味があると思って受講した科目が、担当教員の熱意や授業の進め方によって嫌いになったり、逆にその科目により一層の興味を持ったりもした。それほどに影響を受けるのだということをととても感じた。
- 先生が一方向的に語る受け身の授業が多いと感じた。
- リレー講義は、非常に表面的な話にならざるを得ず、残念だった。
- 自分の好きなように履修できるので、逆に学ぶ内容が偏ってしまったなど少し反省している。でも、世の中にはいろんなことを研究している人がいるのだと知ったり、今まで自分では思いつかなかったような観点から物事を学べて勉強になった部分もたしかにあるのでそれはよかった。自分の将来進みたい道を考える土台を広げることはできた。
- 将来に対するビジョンがみえない
かといって専門を勉強する気にもなれない
京大にまできて何をしているのか…
入学で満足してしまったのかもしれない。
期待してくれている人たちに申し訳ない。
- 様々な分野で圧倒的知識量を有する教授の話を聞いて自分の知識の未熟さを感じた。
- 京大の全学共通科目のよさは、その選択肢の広さにあり、個性的な先生の講義を聴くことができる点にあると思いました。
- 教養をつけるのは難しいな、と
やはり授業という形の中では難しいのだろうとおもいます。
- 授業内容自体には興味が持てないものもあったが、教授が個性豊かで面白くさすが京大だなって思った。

7. 5 経済学部

- 内容に期待していた科目がいわゆる「楽単」で単位は取れたがその授業内容があまり頭に入っていないことが悔やまれた。一方で自分の勉強の仕方や物事の考え方を変えてくれるような授業もあったので、受講する科目の有意義さは時間割が確定してしばらくしてからわかるものだなと思った。
- 入学当初よりは色んなことを知っている状態になったと思う
- 難しかった
- 期待してたより興味がそそられなかった
- 幅広く色々なことを知るの面白いし、大切なことだと感じた
- 教授がやりたいように授業をするのもよいが、できれば大学受験予備校の抗議のように緻密なカリキュラムとその学問を包括的にカバーした授業を展開してくれると、こちらの知識の足しにもなるし、将来どこかで役立つものになると思う。
- 全体的に眠たかったです
- 受講してみたけど何回か授業を受けて興味がなくなった授業が多かったと思います。
- 予想以上に幅広い内容が提供されている。
- 例えば数学や語学などは今、先生個人に進め方をかなり任せているが、こういう必修の科目は、統一したカリキュラム、成績評価基準があるべきだと思った。
- 予習の不要な科目が多かった（というか予習の仕方がわからなかった）
演習で何をすべきか、できれば提示してほしかった
- いろいろな分野の専門的な話が聞けて良かった。
- 例外の方もいらっしゃいますが、大半の先生は全く熱意がありません。
学生の顔をそもそも見ていません。黒板とひたすら向き合い、やたら多くのことを書き、すぐにけし、生徒の様子を全く見ていません。黒板はあくまで教えるツールで黒板に授業しているではありません。ちょっと生徒の顔を見るだけでついていけているかどうかわかるはずです。こんな簡単なことくらいどうしてしてくれないのでしょうか？高校の先生は当然のごとくこれを実行してくれました。研究第一の姿勢はよくわかりますが、もう少し教育にも力を注いでください。大学入学時は日本とアメリカの学生だと日本人の方が圧倒的に勉強ができますが、大学卒業時には追い付かれてしまうのもまったくもって納得です。
- 今まで、学んだことも興味もなかった分野について学びおもしろかった。
- 半期の目的をはっきりとさせて授業をしていただきたいです。
- ニーズに合った授業を取れるように、履修登録期限をもう少し延ばせたらありがたいかも。
- 今まで自分の中になかった考え方が生まれた。
- どの授業もキチンと聞けば為になるものであるし、楽しく、ある種の感動を与えてくれるものである。そして、自分自身そのことに気づいてからは興味のあるものについてはキチンと聞くようになった。しかし、自分自身もそうであるが、やはり学生は授業内容よりも単位のとりやすさを考慮しがちである。その折り合いはやはり難しいなど感じた。
- 学生同士の交流がもっとできるような工夫が欲しい。
- 完全に大学入学をゴールだと考え、入学以後の勉強に全く熱意のない学生の多さ。
- 自然群を履修する上で、文系には知識上授業についていけないものがあったので、文系には厳しい科目ははっきりそうであるとシラバスに記載してほしい。
- 全学共通科目を履修したことで、良く言えば幅広い知識を身につけることができたが、悪く言えば中途半端な知識を身につけるだけに終わってしまった。
- 出席してるのに欠席扱いになっていて単位をくれなかったのが本当に許せない

- もっとしょうもないことを学びたかった
- これは少し違うかもしれませんが、全学共通科目の後期授業の「異文化コミュニケーション」で春休みにオーストラリアに行かせて頂いて、非常に意欲が増進しました。
考え方が全く変わりました。非常に素晴らしいプログラムでした。欧米圏への留学は素晴らしいことだと思います。もっとこのような機会が増加し、多くの学生が海外へ行くようになれば、京都大学はもっと変われると思います。私はオーストラリアで楽しく生きるということを学ばせて頂きました。それは勉学についても応用できることだと思います。
- 全学共通科目を通して視野を広げる、というのはリクツとしては理解できるが、実態はどうなのだろう、と考えさせられる。特に第二外国語を学ぶ事の無意味さは強く実感する。
- 語学とか成績の付け方も少し考えて欲しい。教授によって厳しさが違い過ぎる。
- 高校の教員と比べて、大学の教員は指導力があまり高くないと感じた。
- 曜時限が同じ科目は同時登録できないのでそこに折り合いをつけて時間割を作成するのが大変でした。
- ◎自然群で教科書が指定されていない授業が多かったので文系で予備知識のない自分にとって勉強するのが大変だった。
- ◎豆知識が広がった気がする

7. 6 理学部

- 「京大は単位が降ってくる」とは聞いていたが、まさか優が雨あられと降ってくるとは思わなかった。今は、単位の有無を気にせず自学自習と自主ゼミに時間を振るべきだったのでは、という後悔の念がある。
- ゼミナールで、自分なりに様々なことを調べて、発表するという一連の流れがとても自分で学びを享受している気がして楽しかった。
- 結局専門(数学, 物理)に近い分野に興味が移ってしまい、一般教養科目に対して意欲を持ってなくなってしまった(但し論理学など専門にも関わりそうな科目は除く)。必要な分を取り切ったことに満足しているし、2回生以降は一般教養科目を履修する予定はない。
2回生の英語の科目は厳しくないが良いな、と思った。英語の必要性は分かるが今は専門の勉強に力を入れたい。正直な話、英語に時間をかけていられない(と言うよりかけたくない)。
- 専門にするつもり以外の分野以外のことも色々知ることができ、良かったと思う。
- 大学の勉強は高校での勉強と違い、自ら学ぶ意志を持って行い、かつ自らそのやり方自体も考えて行わなければならないと感じた。
- 第2外国語つらい
- 全学共通科目の学習は、入学当初に考えていたよりも非常に有意義なもので、人生の糧になるような幅広い教養を得ることができ、大いに満足している。
- 入学時点と比べれば、かなり賢くなれた気がします。単位を落とすのではないかという不安は常にありました。
- 大学の授業は、それ自体では習得不可能で、特に興味を持った分野を自分でさらに勉強したり、友人とゼミを開いたりして理解を深めてこそ、意義深いものになると実感しました。
- 数学楽しい
- 同じ内容の科目でも教員によってその中身が変わること、自分の興味のある科目を選んだ方が自分のためになるということ。
- いろんな先生や生徒がいるのだなぁと思った

- 文系・理系を問わない幅広い種類の科目の中から興味を持ったものを学べるので楽しい。
だが積み上げ型の教育でないため、先学期学習した内容を既知のものとして扱わないで進める科目も多々あり、長期的な勉強の成果を感じにくい。(逆に学習したことのない定理等を既知としてガンガン進めていく科目もあって困ったこともあった。)
- 興味のある分野とない分野で意欲に相当な差が出た。
- KUINEPは生徒に将来のキャリアの可能性や選択肢を提要するという意味で大いに有用だと感じた。
- 他系統へ目を向けることの重要性和自分の無知さを理解した。
- 答えを探したり、課題を達成するにもいろいろな道があり、それは人それぞれで違うということ。
- 想像以上に多くのことを学ぶ機会があったと思った。
- 問6の解答9に同じ。
- 幅広く様々なことを学べたと思います。
- この1年間を通して痛烈に感じた事は、勉強意欲が思い通りに持続させられないということだった。中学や高校の頃は教師から宿題が出されるなど、いやでも勉強しなければならない環境であったため、コンスタントに勉強できていたが、今はしたくなければなくてよいという環境なので、ふとさぼりたくなったときに一気にさぼってしまうという危険が常にある。その点で、大学ではコンスタントに意欲を保って勉強することがかなり困難であったように思う。常にどうやったらモチベーションを持続できるかを考えていた。その解決策は今もまだ模索中である。非常に悩ましい問題であるように思われる。
- 最近ほかの大学では出席を重視したり、履修を学年によって制限したりしているがよくない。自由に履修を考え、自由に様々な学問に触れる機会をこれからもずっと維持して欲しい。
- 自然科学の授業においてよく見られるのだが、授業の最初の方の内容が簡単過ぎて、拝聴する意欲が失われ、出席しなくなるということがよくあった。先生方にはもっと学生のレベルを把握して、内容に緩急をつけて、授業を行ってほしい。
- 今後の専門の基礎となる科目が、今後専門科目の勉強を進めていくうえで、非常に重要になるということ。
実験では、レポートの作成は大変であったが、レポートを作成する過程で新たな知見を得、様々な考えをめぐらすことができた。
人文系の科目では、これまで知らなかったことを多く学び、視野が広がった。
- ためになっているのかわからない。特に数学などは授業に出ても理解できないため教科書を暗記するしかなかった。
- 同じ名前が付いた科目であってもやっている内容や教員の熱意にちがいが大きく見られた。
それがいい意味でも悪い意味でも特徴であると思った。
- もっと自分から積極的に勉強すべきだったと思う
- やる気がなければ勉強は無理だ
- 教員の外国での経験など普段あまり聞くことのできない話を聞け、視野をこれまで以上に広く持つことができた。
- 大学での学習は個人に任せられることが多いので、演習のない講義にはついていくのが大変だった。自分から学習する意欲が無いとダメだなと思った。
- 第二言語が難しく専門に時間をさけなかった。
- 興味があっても人数制限で履修できなくなるのは辛かった。

- 授業によって、担当教員の熱意に大きな差を感じた。多少内容が難しくても担当教員の熱意が感じられる講義は聞いていて大きな刺激となり、意義深いものであったと思う。
- 一方で、つまらない講義が見られたのも事実である。
- こちらの関心や理解度に合わせることも重要かもしれないが、何よりも教員が伝えたいことを熱意を持って講義で伝えてほしい。
- 話が変わるが、私語が多い学生は即刻講義から消えてほしい。大いに目障りである。こうした講義の質を低下させる連中に対する対応は何とか取れないものだろうか。いっそ寝ていてくれば静かで迷惑にもならず、いいのだが……。
- 教員側と学生側、双方に講義の質を低下させる原因は存在している。キャップ制を導入したから生徒の学習時間は増えるだろうなどという安直な対策に走るのはいかがなものかと思う。コマ数を制限されたところで出てこない学生は出てこない。だからといって無駄に出席点を高めるのも、上記のような馬鹿が講義室にはびこる結果を招き、考えようである。出席点がなくとも出席したくなる講義があって、学生たちは知的好奇心から出席する。そのような関係は難しいのかもしれないが、現にいくつかの講義ではそのような姿勢が見受けられる。このような関係がより多くの講義で実現されることを望む。
- 高校とは別次元の難しさの科目もあり、大変だった。
- 本や教科書に書いてあることを板書してゆくだけの授業が多く、退屈を感じたことが多かった。そのため学期が進むにつれて一人で自宅で勉強するようになった。
- 教員の方々の、それぞれの分野における能力の高さを感じられた。
- 入学当初はただ自分の興味に合った科目を履修したいと考えていたが、1年間色々な科目を履修する中で、自分で考察したりその結果を発表するといった科目が大変ではあるが面白いと感じた。
- 自分のやる気次第であると感じた。
- 勉強したことが思ったほど身についている実感がない
- 女の子が少ない
- ◎日本文学や心理学、科学論など様々な分野の学習ができたので非常に有意義な時間を過ごせた。
- ◎科学生物選択なのですが、大学で習う物理に苦手意識がありすぎてつらいです。もっと楽しい初修物理学の授業がいいです。
- ◎楽しかったけれど、しんどかったです。勉強する意欲は入学当初からずっと変わらずあるのですが、私は元々ペースがとても遅い人なので、授業に出られなくなったり、しっかり勉強できないまま半期が終わってしまうということが多々ありました。理学部生の私はどちらかと言えば、時間がかかること承知で、自分のペースで納得のいくまで勉強したいと思うのですが、どうしたって四年間で卒業するペースで行かないと、うまくいかないのが実情であるように思います。私はもう少し学習計画をフレキシブルに組み立てていけるようになったらいいのかなと思います。
- ◎自分から積極的に学ばなければ得られるものは少ないと感じた。
- 自分の興味のある科目は真剣に受講できたし、成績も良かった。
- より多くの授業を自分のものにするために、興味の幅を広げなければならないと感じている。
- また、バイトや課外活動、交際との両立、生活リズムを保持することも課題である。
- 学問には様々な分野が存在し、そして様々な方面で活躍していらっしゃる先生方が存在することを知った。
- また、今まで知らなかった分野（生態人類学など）の授業を受講できてよかった。

- 社会とか楽しかった。
- ◎授業の内容や担当教員の考え方に興味を持って履修している人はよいのですが、そうでない人は授業態度が悪く目に留まると不愉快になりました。出席を成績に加えなければこのような事態は起きないのかもしれないと思いました。
- ◎本当に実になる勉強は、自分がしたいときにしたいことをするものだとつくづく思う。教養科目はまさに単位を取るゲーム、と表現される所以に非常に納得できた。だが、教員が非常におもしろそうに楽しそうに、熱をこめて語ってくれる講義は、興味が湧く湧かないに関わらず、学問の奥深さを感じられるという点で有意義であったかもしれない。
- ◎今までは勉強なんて自分がやるかやらないかで教える人は大して関係ないと思っていましたが、やっぱりおおいに関係あるのだなあと感じました。

7. 7 医学部

- 一般教養をほとんど出席していなかったのですが、言える口ではないですが、自分がこれから学ぶ専門分野の基礎をしっかり学びたかった。教養は授業を受けなくても自分で身につけたいと思う。明確な勉強の目的を持てなかったのは大きな後悔。
- 担当教員の方々は、本当に多種多様で、講義の際は本当に楽しかったです。
- 前期は楽勝科目ばかり取ったために、確かに単位は来たが、履修した科目の中には興味の持てない科目が混ざっていた。後期は逆に興味のある科目を多く取ったために、結果として取った単位数は少なくなったが、中国史をさらに深く知れたし、ほかにも様々な自分のこれまで知れなかったものに触れられてとても楽しかった。
- それぞれの分野に深い背景があるのだと感じた。各科目が単体で成り立つのではなく、密接に関連し合うものなのだと考えました。
- 全体として、教員には概論的なざっくりした内容を延々と話すのではなく、自分が研究していることを話してほしい。そうでないと京大で一般教養を受ける意味がない。
- 一般的な教養を身につける上で重要なことを学んでいるという感覚はあったが、中には我々が講義の質の向上を強く望む教員もおり、失望しただけの講義もあった。
- 興味のある科目を受講している時に、教員が授業中に示す文献を授業後に参照して自分の知識を拡げていくのが快感でした。
- もっと全学の科目も勉強すればよかった
- ◎勉強を続けるのは難しいと思いました。
- ◎教員や周囲に頼らず、自分で何をすべきかを決定しなければならないということ。いわば京都大学の「自由」を実感した。
- ◎自分の学部と全く異なる分野の授業を受けることができ非常に楽しかった。

7. 8 薬学部

- 全学共通科目を受講して、学問の楽しさを改めて感じる事ができたのではないかと思います。具体的には、高校ではあまり履修できなかった文系科目、物生選択のため途中で履修を止めてしまった物理などの科目を、「再び勉強してみたい」と思わせてくれました。また、個人的な要望としては、犯罪心理学や科学捜査など、犯罪捜査に関係する講義を取り入れてほしいと思います。
- 出席しない生徒が多すぎて、学習意欲を削がれそうになった。授業自体は面白いものが多いので出席を考慮するなどして出席を促したほうが良いと思う。

- 出席を取る意味がわからなかった。出席すれば評価されるなんておかしいと思った。
- ◎自分で行動することの大切さを学びました。
- 京大で KUINEP 講義（英語講義）を薦めているのに、人間健康科学科看護学専攻で英語講義での単位が卒業に必用な単位に規則上カウントされなかったことが残念でした。これではいっこうに私の学科から英語講義に出る人はいないことになるきがしました。
- 様々な分野のことが学べ、自らの見聞が広がった気がする。
- ◎楽に単位が取れるからといって来る人がたくさんいて、自分の興味のある授業に入れなかった
- ◎今まで関心が薄かった事柄でも授業を受けてみると興味がわいてきた。また、普段見逃していた些細なことについて詳しく知って感動することもあった。
- ◎専門以外で学べることが多く、面白い授業が多かった。
- ◎私たち生徒にコミュニケーションをとってくれる教員の方は、より私たち生徒のニーズに応えるような授業や助言をして下さり、大変ありがたかった。
- ◎科目ごとに、成績評価の基準に大きな差がある。あまりその基準にまどわされず、興味のある講義をなるべく多く受講し、熱心に取り組もうとできた。
- ◎初めは自分の興味ある道を一般教養科目から探していければよいなあと考えたにもかかわらず、流されて楽なほうを選んでしまい、あまり自分の身につけなかった。また今年度も気分新たに頑張っていきたいと思う。
- ◎大学受験では学ばなかった心理学の授業が非常に興味深かったです。
- ◎1 コマが 90 分だと集中力が持たない。
- ◎普段全く気に掛けないようなことを、全学共通科目で触れ、専門科目に対する視点が変わっていった。一般教養を半期やっただけではそのトピックのスペシャリストには勿論なり得ないが、学問はすべて繋がりがあがり関わり合いがあるのだということを感じた。
履修登録はしていないが興味を持った授業には「潜り込みに」行った。キャップ制度があり、様々な物の見方を取り入れられない息苦しさを感ずる。
- ◎全学共通科目は色々な科目があり、自分が興味を持てる講義を選ぶことが出来た。その群は、やはり現社・自然群がほとんどだった。人社群は単位を取りにくいものが多く、興味を持つものが少なかったのも、前期のテスト対策はしんどかった。

7. 9 工学部

- 自分の専門ではない他のいろいろなお話が聞けて楽しかったです。
- 後期になるとどうしてもサークルが忙しくなり、専門科目は切ることができないので、どうしても全学共通科目への出席が減ってしまいます。そんな中でも授業に引き付ける何かがある授業展開だと理想的です。
- どのかもくも興味深いものだった。
- 自分の好きな分野は聞いていて楽しかった。嫌いな分野に興味をもたせるほど面白い授業はなかった。
- 勉強が楽しくなった。
- 自分の専門以外の分野を学ぶのが楽しかったです。
教養として身につける大事さを痛感しました。
- 教員も単位取得を予想以上に配慮してくれるものだなと思いながら、それに甘えてはいけな
いと思った。
- 大学に入るまでには絶対学習しないような分野の講義が受けられるので興味深かった。

- 興味のあることには熱心に取り組めるが、あまり興味がないことにはいいかげんな態度で望んでしまった
- 高校まででまったく気にもしていなかった事柄についても学ぶことができたことを嬉しく思う。
- 理系以外の分野にも興味のある講座が開講されており、楽しく知識を得ることができた。理系の講座も楽しく、化学に対する関心がさらに深まり、将来集中的に学んでいきたい分野を見つけることができたため、非常に有意義だった。
- 自分の興味のある科目を取っていたので、授業は楽しく受けられました。
- 自発的に勉強することが何より大事
- 受きたい講義が受けられないことが多々あった
- 興味を持てるものと持てないもので取り組み方が大きく変わってしまった。
- 教授の違いによる成績の付け方の不公平が気になりました。
- 英語の授業ではコミュニケーションが重要であるということを知り、英語学習に対する取り組みを改善できたことが自分にとってプラスになった。
数学では実際に、具体的に計算、実験することの大切さを知りこれからの勉強に生かせると思った。
その他の科目はどんなことを勉強しているのかは分かったが、奥深くの理論という点での理解度は完ぺきとは言えない。
- 自分の専門分野以外の科目を多く受けることで、知識の幅が広がり、専門分野の知識も受け入れ易くなったように感じた。
- 幅広い知識を身につけないとだめだなと思った。
- 様々な学問分野の存在を知り、自分の知識の幅が広がったように感じた。
- 様々な分野を勉強することで、自分のやりたいこと、興味のあることが明確になっていくのだと感じた。
- 楽しかったです。出席者が着々と減っていき見ていて楽しかったです。
- 単位認定はされたが、実力がみについているとははっきり感じられないのが悩み。
- 面白い授業が多かったです。人社群なのに情報系について学べる授業があるなど、分野を超えた授業は個人的にとってもお気に入りでした。
不満としては、人社群の授業よりももっと拡大群の授業を履修したいのに、自分の学科では少ししか卒業要件にカウントをしてくれない点と、数学や理科・外国語で、教員によって学生に求めるレベルに大きな差がある点です。専門によってレベルが異なるのはしょうがないと考えますが、それ以上なものが時々見受けられると思います。
あともう2点あります。まずは京大の、スケジュール連絡の遅さ(特に年度の変わり目)です。これは、新入生にとっても切実な問題だと思います。すべてを KULASIS でやってしまうと、ついていけない学生もでてきます。たまには直接メールでお知らせしていただけるととても助かります。
そして、留学などについてです。KUINEP など、立派な建物や留学のサポート体制は充実していると思いますが、短期留学の学内プログラムなどはもっと充実させるべきだと感じています。理系プログラムは結構少ないのではないのでしょうか。学生が負担するお金も他大より多いこともあったりするので、そのような印象を受けてしまいます。
個人の問題として辛かったのは、朝起きることと、吉田南キャンパスに人が多すぎることです。
全体的には、この大学に入ってよかったと思っています！

- 今までに経験したことのないさまざまなことを学ぶことができ、最初は戸惑いもあったが、いい経験になりました。
- 講義名を見て、おもしろそうなものを選んでいたら、自分が想像していたのと違うものが多い、途中から単位を取るために仕方なしに受けているものが多かった。
- ゼミ形式の全学共通科目を増やして欲しい。
後期にゼミ形式の全学共通科目を受講し、他学部の人と真剣に議論するのは非常に有意義だと感じた。こういう機会がもっと欲しい。
- 理系の、工学部なので自然群以外は正味どうでもいい
どうせ、取りたい科目もクラス指定とかぶって取れないから期待もしていない
- 専攻にとどまらないさまざまな分野の授業を受けて、自分の視野が多少広がったように感じる。また、大学以前はどちらかというと受け身で授業に接していたが、全学共通科目の授業をはじめとする大学の授業を通じて、自ら学び取るという姿勢の重要性に気づいた。
- やりたいことが多すぎて、専門分野ではない全学共通科目まで手が回らなかった
- 全学共通科目は専門の講義とは違い、一般教養を身につけるための交互に過ぎないと思っていたが、単にそれにはとどまらず、自分がこれから生きていくための基盤を気づいていく講義だったのだなと非常に満足している。ただし、教授が生徒の予備知識等に気づかず時々、より深い内容を話したりする場合があったので、その点はもう少し考慮してほしいと感じた。それ以外の点では特に不満を感じていない。
- 採点が極端に厳しい科目があった。
- 面白くない。不要なものばかりに感じる。
- 難しかった
- もっとも感銘を受けたのは○○先生の※※※の講義でした。あれほど講義に積極的、能動的、かつ興味関心をもって参加できたものはなかったと思います。ぜひ大勢の方に受講を勧めたいなと思いました。
- 人社の面白くなさはこれ如何に。いい教員を切っていく※※は辞めろ、いや、辞めてください。
- 混沌に目鼻をつけたら死ぬのかと思ったが、より元気になったので戸惑った。でもこいつと一緒に生きようかとも考え始めている。
- 自分の専門外の様々な教養に触れることで、幅広い知識を身につけられたと同時に、教員との交流を通じて学習意欲が湧いた。
- 楽しかった
- 自分で勉強することの難しさを感じた。
- 履修登録のアドバイスを、学校側がもっと行って欲しかった。
- 様々な分野に触れることで、よい刺激になりました。
- 自分で自主的に学んでいくことの重要性。
- 受講できる科目の多さ、分野の幅広さに驚きました。自分が専攻しない化学以外の分野でも、経済学、法学、哲学などさまざまな学問を学ぶことができ、さらに一つの科目でも複数の教授方から学ぶことができるのは京大だけだと感じました。この一年間さまざまな一般教養を学び、自分の見識とても広がったと思います。
- 全学共通科目は、学部学科にとらわれずに自由に選べると言われますが、結局はほとんどの授業がクラス指定かもくであり、専門科目との差が感じられませんでした。学部学科によって、必要な専門知識に差があるため、その調整に利用されているという印象を強くうけました。

- 休み時間に質問に行こうにも周りの友達に合わせてしまってほとんど行くことがなかった。
もっと主体性を持ちたい。
- 全学共通科目の一番の魅力はやっぱり自分が専攻する科目以外の興味のある科目を受講できることにあると思うし、自分も実際にそれができて良かった。
- 実験の単位は4単位あってもいいと思う
- 今まで興味のもてなかった文系科目が楽しく感じた。
- 英語の授業が少なすぎて、英語の力が伸びない
独学だけでは限度がある
- 線形代数学 A, B 授業を受けて授業の内容がとても難しくそれは事前に全体的に予習ができていなかったら絶対授業の内容さえ理解できない。それでそのような授業は先輩達とか学校から予備教育が大事だということを夏休みとか冬休みに教えてくれるならもっといいかも。
- もう少し丁寧に解説してほしい、と思う授業が度々あった
- しっかり授業に出るべきだなと感じました。
- この大学で学べるのが嬉しい。
- 大学の授業も大切だとは思いますが、実際に授業を受けてみて、興味を持てるような授業が無かったため、自分が興味を抱いていることは自らで学ばなければならないと感じた。
- はやく専門やりたいなーと。
- 理系科目が思ったよりも難しい。
- 興味深く、知識のつく講義が多かった。特に英語のリーディング・ライティングの講義はともに、予習や課題の負担がかなり大きかったがよい経験になった。線形代数学の講義は、言葉による解説が少なく、これまでに見たことのない数学記号や用語が説明なしに頻出したのでほとんど理解できず、結局独学をせざるを得なかったのが非常に残念だった。
- 自分があまり興味がないことについて勉強するのはなかなかしんどい
- 基礎ばかりで面白さにかけた
- 人社群の科目を受講してみて、いろんな研究の分野があるんだと感ずることができて、面白かった。
- 教養としてできる限り記憶に残すという意味でも、生活に根付いた豆知識的なトピックを増やしてほしい。
- 自分の直接の専門である化学の分野から、全く関係ない歴史や政治学まで、幅広く学べたことによって視野が広がった。
- 大学の講義というものは「教育」ではないということを実感した。相手側は生徒を育成する気はないのでこちらで何かしなければならぬと考えさせられた。
- 自分が今まで知らなかった世界に触れる事ができた。
- やはり京大は頭の良い学生が多いなあと感じた。それにより、自分ももっと勉強しなければならないと思い、良い刺激になった。
- 授業を受ける側にも問題があるとおもいますが、教師で指導を熱心にする人としらない人の差が大きいように感じました。本当に興味をもって、受講している人もいると思うので、授業はもっと工夫してやってほしいと思います。
- 予備知識が必要だと感じた
- 試験で単位を取ることでばかり考えて勉強することが多かった。
- 履修登録した科目の内容が、こちらが期待していたものと違っていた場合があり、それを受講し続けるのはつらかった
面白い講義を受講すると、学習の意欲が上がった

- 難しい。みんな賢い。
- 工学部のA群必要単位取得数が少し多いと思う。
- 高校では宿題が出され、復習が嫌でも行われていたが、大学では自分で復習しようとしなければならず、それに気づいたのは前期を終えてからだった。復習は最も大事であると感じた。
- 工学部の学生として、特に自然群の科目の勉強に熱心に取り組み、専門的な学問の基礎となる学力が身につけているのを実感している。また人社群の科目で、新たな視点を身に着けることができた。
- 期待していたよりも興味をそそられるものが少なく残念だった。
- 授業の時、先生は学生の授業内容の興味をもっとアップしてほしい、ただの授業内容通りやるではない。
- 自分の専門とは全く関係のない講義を受けることほど楽しく、刺激を受けるものはない。前期は「留年」という言葉に過剰な恐怖を抱き、「楽勝科目」と呼ばれる講義を重点的に履修したが、後期は心機一転、「漢文学Ⅱ」や「東洋史文献講読演習ⅡB」など、文系の学生が多そうな科目を取った。そして、これらの科目では教員の容赦ない講義や出席する学生とのディスカッションなど、様々な魅力があった。いわゆる「理科系学生を意識した文系科目」ではだれにとって面白いのかよくわからない講義が多かったが、こういった「文科系学生を想定した講義」では文科系の学生が楽しめるような講義が行われており、見ているだけでも興味深いものであった。
- 面白い授業は多いが、ネットで（ネタ的な意味で）話題に上がるような伝説的な授業を選択できればいいなと思っていたがあまり遭遇出来なかった。ただ月曜に実験が入っていて、代休などでドンドン後ろの日程にずれていき、レポートがテスト対策期間にまで食い込んで専門科目のテスト勉強がほとんどできなかつたのは何とかして欲しかった。
- 学問には様々な分野があり、それを専攻している教授の皆さんが非常に熱意を持って取り組んでいることに感動しました。
- 自分の履修したい科目がなかなか履修できなかつた。履修希望人数が多いため抽選になって私は残念ながら落選してしまったのだが当選した人の中に真面目に講義に出席しなかつた人が見受けられたのでその点については不満だった。
- 工学部に自分の本当にやりたいことはない。
- 外国語の勉強への負担が重く、逆に理数系の自分の本来すべきことがおろそかになりがちだった。
- 専門外の分野の勉強もできて、非常に楽しかったです。授業はかなり自由に選択できましたが、もっと自由に選択させてほしかったという思いもあります。
- もう少し座席数に余裕が欲しい。
- 勉強は自分ひとりでするものだと実感したのでおすすめの参考書、自習スペースの充実等自学自習のしやすい環境を求める
- やってよかったという講義は数多くあったが逆に意義を感じられない講義もあった
- 真面目に勉強すればいい成績がかえってきて、勉強してもあるで無意味になるほど、難しいテストがあるわけでもなくて、よかった。
- 自分が感じている世界と、他人が感じている世界は、心理的にも物理的にも異なるものなのだということを知り、今までの自分の浅はかさを思い知った。また、有機化学は、暗記物によって雁字搦めになった上に、何でもありのわけのわからない

- 前期では、正直勉強においてついていけるか心配だったが、大学での勉強の仕方を一年かけて理解し、勉強しさえすれば理解できるし、理解できれば楽しくなるような授業が多々あり、今後行われる授業がどのようなものか非常に楽しみである。
- 現代では学問の分野は非常に細分化・多彩化されており、各分野の基礎教養を抑えるだけでも大変な労力がかかると思った。もっとも、大変な労力をかける必要も価値もあると思う。
- 授業中はしんどかったけれど、終わってみればこんなもんか、って感じですね。…本当にやったことが自分の身についたのかよくわかりませんね。
- 抽選というシステムは、ある程度仕方ないとは思いますが、本当に取りたい科目であるのに、そうでない学生達の適当な履修登録のせいで受講できないのは、少し辛い。とはいえ、やはり仕方ないことなのかなあとも思う。
- 思っていたほど興味ある内容を学べなかった
- 全学共通科目の自然群は専門の基礎となるはずなのに、一部の科目・先生はそのことを念頭に置いた指導をしてくれなかった気がします。
 人社群の科目では研究の最前線にいる先生方から最新の学術研究・学説を教えてもらえてとても刺激的でした。
- 自分の学科の専門科目の内容に特に興味が持てません
 全学共通科目の中にはかなり興味の持てる内容の授業がありました
- 勉強の範囲が幅広く面白かった
- 専門科目が少なかったが全学共通科目で興味のある分野を知ることが出来て有意義であった。
- さまざまな分野の知識を得ることができ、有意義だった。
- 授業内容と成績評価について、教員に対する評価とそれによる授業の改善がもっとしっぴかりなされるべきだし、その改善が学生にも見える形で行われるのが望ましいと思う。学生個人の成績に反映させる必要は常にはないだろうが、教員への評価の題材として学生の授業への出席状況を把握することは重要かもしれない。また、半期ごとにクラスで行っている授業アンケートをより反映させるべき。またそのアンケートも、文章で意見を述べられるようにして欲しい。
- 幅広い知識や経験を得ることができた
- 勉強が作業になってきた
- 受けたと思った講義も抽選でうけられず、その講義に抽選であたった人がまともなうけてなくとても不公平だと思った
- 普段何気なく目にしている身の回りの現象に対する見方が大きく変わった。
- 思ったより興味を持てるものが多かった。
- 一年間を通して様々な分野の内容について学べたのでとても良かったと思う。
- 自分の専門外の講義をとると視野が広がるし楽しいです
- 教員による評価方法の違いを痛感した
- 真面目にやろうとしても結局できないままのことが多く、自分が授業に出なかったところで誰も気にしないし自分のことなど誰も必要としないだろうと憂鬱になったりもした。勉強したのなら単位に意味はないし試験勉強にも力が入らなかった。今は授業料や奨学金への責任と自分の将来への責任から努力するべきだと思っている。単位がないと自信を喪失するので、いまから自分の精神の健康の為に勉強しようと思っている。けれど大学にはいってから勉強ができてないので、もはや自分は結果でしか立ち直れないと思っている。勉強は楽しいのはよくわかるが、心がだるくて何もする気が起きないことが多いので、一番大切なのは毎日元気に生きることではないかと思う。

- 最高！
- 教養が深まった
- 必要なものだった
- 京大の教員が想像以上にすごくて、夢が広がった。
- たのしかった
- 前期は割と勉学に対して意欲的だったが後期は全く勉学に対する意欲がなくなってしまった。
- まず自分から得ようといなければ何もしなくても終わってしまうことを知った。これは私としては結構驚いたことで、救済策もサポートも講じられないので情報が集まらないこともあり、高校までと比べると少し大変だった。たぶん方法を探せばあると思うので、尽力してみたい。
- 教養として、また専門分野の基礎として履修する場合も、その科目を学習するとどのようなことに役立つのか示された科目のほうがより意欲が湧く傾向にあると思った。
- 国際コースの授業は日本語の授業よりも楽しかった。
- 科目名が面白そうで実際にうけてみて、面白く興味をもてた科目もある一方で、どうも自分の思っていた授業と違って面白くないということもあった。シラバスをじっくり読んで本当に面白い科目を見つけようとおもった。
また、数学や理科の科目では、単位を取ることに気を取られ、本当に授業内容が身に付いているのか考えることもあった。
- 黒板が見にくい授業はなんとかしてほしかった
- 自分は理系なので必要ないと思っていた分野の話も聞いてみると非常に面白く、一般教養の重要性がよくわかった。
- 様々な専門以外の分野の授業も受けて、専門以外の内容にも興味が出てきてしまって、正直なところ進路に迷いが生じ始めた。
- 様々な分野に触れることができ、今まで気にしたこともないようなことにも興味がわくようになった。
- 専門以外の科目が面白くなさすぎる
- 多種多様な授業があるなかで、幅広い知見を得られてよかった。
- 学ぶことはまず真似することから始まる
- 単位をとることが目的ではないのだなと感じた。
- 同じ“優”でも先生によって厳しさが全然違うので、それが留学などの活動に大きくかかわってくるのは好ましいことではないと思う。
- 教室が広すぎて教員の視線に気を使わなくなり、授業中にケータイをいじったりしてしまう
- 非常に興味深い授業が多かったので、満足している。
- 一つ一つの授業にたいしてちゃんと勉強することが大事だと思った。
- どんな分野でも突き詰めていけば深みがあり、面白いものだと実感した。学年が上がっても、自分の専門分野のみに気を取られすぎず、視野を広く保つことが肝要だと思うようになった。
- 高校までの勉強と違い、自分が興味をもった分野の講義を受けることができるので、意欲と興味を持って学習することができました。
- 自分の興味ある科目においてさらに教養を深めることができた。
- えいごむずかしい
- もっと自主的に勉強するべきだった
- 同じ科目でも担当教員によって単位の取りやすさにバラつきがあるのは果たしてどうなのかと思う。

- 主に自然群においてレポート課題の答えを提示してほしかった。
- 各科目工夫がなされていて非常に興味深かったです。
- 楽しんで受講できるものと思った。
- 先生によって指導する方法に様々な違いはあると思うが、もう少し生徒の目線に立って授業を進めてほしい。
- シラバスでは面白いかどうか本当にはわからない。実際に行ってみて初めて分かる。僕はこれを気に入っているけどほかの人はどうなんだろう？不満の声をたまに聴きます。
- 英語の科目は完全に失望だった。実力にも役立たないし意味なさそうな宿題や授業課題など、もっと実用的な授業を行ってほしい。
- 特に悩みはなく順調であった。
- 思っていた通り、大学は自分で主体的に活動しなければ何も得ることができないと感じた。自然群の授業に出席がないというのは先生の生徒に求めるものが明確にされていてとてもいいと思う。ただ、同じ科目なのに先生によって難易度が大きく異なるのは何とか改善してほしい部分ではあります。特に、物理工学科では一回生の終わりに般教の成績によってコース分属が行われるのが不安でした。
- クラス指定の同じ科目でも教師によって内容が異なるのは理解できるが、あまりにも内容が他のクラスより少ないのは不安を感じた。
- 手は抜かないべき。
- 人社系の科目で教授が言っていることが平常の考え方と大きく異なっていて理解するのが難しかった
- 専門の講義の基礎が全学共通科目にあると感じた。
- 教員の方々の興味深い話を聞くことができ、為になった部分もあった。
- 1年間だけでは学部のクラス指定科目等を加えたうえで様々な分野の科目を十分にとることが出来なかったり、また、本当に履修したかったものに抽選で落ちたりと物足りなさはあった。抽選の形式はもっと改善して、本当に履修したいと思う人が必ず受けられるような体制を感がえるべきだと思う。
- 自分一人の力では単位取得はなかなか難しいと感じた。
- いろいろな考え方があるということを学んだ。
- 本を読むなどして、幅広い教養を身につけなければならないと感じた
- 専門外のことを学ぶのは楽しい
 - 専門分野の基礎科目は全学共通というよりも専門科目であると思う
- 結構自由で、面白いものはけっこう面白い
- 自分がやりたいと思っていた、専門的なことだけでなく、人文系の科目まで履修することは、人としての幅を広げてくれました。
- ◎自分の知識の足りなさを知りました。
- ◎先生によって全然違う
- ◎これからも 頑張ります。
- ◎過去問を持っていない人がより劣勢と気がします。
 - 不平等を解除するため、先生が過去問を KURASIS またはウェーブなどにアップロードしてほしいんです。
- ◎学部によって単位の取得の難しさに差があるすぎる。工学部としては自然群の勉強に集中したいところではあるので、人社群の単位取得を簡単にしてほしい。あまりにも負担がかすぎる。

- ◎工学部であるため、クラス指定科目と重なり、取りたくても取れないといった授業が多かった。
- ◎高校まででは学んでいない、教養としての知識を得ることが出来るとてもいい機会になった。
- ◎理系学生のために、生態人類学など自然科学科目に似ているが実は人社、みたいなものを増やしてほしい。
- ◎自然群の単位認定の幅が広ければいいのと思った。工学部の制限があったので。
- ◎一年を通して、クラスとの交流を持つことができ、入学当初はそれほど期待していなかった教員との交流も持つことができた。

7. 10 農学部

- 試験直前・試験中になると自習できる場所が減り、空席を探すのに時間を使わなければならないので辛かった。
- 学部の専門分野とは関係なく、教養として知識をつけるのは必要だと思った。また、知識を身につけることは楽しいと感じた。
学部学科で推薦されている科目は、自分の学部学科でのちのちどのように応用されるかをもっとはっきり知りたかった。
- 授業に出ようが出まいが、内容がほとんど理解できず、それでも何故か単位はもらえるという不思議な仕組みに戸惑うことは多かった。特に、外国語の授業では、英会話やリスニングの授業ならともかく、ライティングの授業で教員が英語しか話さないのには戸惑った。日本語での説明も加えてくれたほうが分かりやすかったと思う。
- 興味を引く科目が少ない(特に後期)
- 高校までの授業と比べて、先生が生徒の理解度を気に掛ける授業が少なくなったと思います。それが大学と言われれば仕方がないですが、先生が前でしゃべっていることをただ座って聞くだけというのは退屈で、どうしても単位さえ確保できればいいやと考えてしまいました。実習系の授業はなかなか面白かったです。
- 意外と自由だった。
自分次第で良くも悪くもなると思った。
- もっと分野横断型の、分離横断型の専攻が許されればいいのになと感じた。
今の専門もしたいが他学部の専門もすこし必要だと感じているのに、もっと学部間の垣根を下げて欲しいと思った。
- 心理学がとても奥の深い学問だと感じた。
また専門科目の基礎になる内容を各学部の担当の先生が担当（農学部における基礎有機化学A、Bなど）されていて、その学部で将来必要となる力を身につけられる構成にはとても満足している。
- ごくごく一部の教職員には教育に不誠実な態度を示すものも見られたが、それはある程度の予備調査で避けることができたので、さほど不満ではなかった。また、すばらしい教員もいたことは厳然たる事実であり、自身の将来の方向性を左右したり、自らの価値観やパラダイムにも影響を与えてくださった方がいて大変ありがたかった。
- 勉強で躓いても、自力でなんとかするしかない場面が多い
- 興味のある分野の勉強は楽しかったが、逆に興味のない科目の勉強は苦痛でした。本当にただ単位のために暗記しているだけだった。正直なところ、人社郡をもっと減らして自然郡の勉強をしたい。

- 理系、文系にとらわれず幅広い知識を持つことの重要性を感じた。
- 知識が増えて嬉しい
- いろいろな視点があるなぁと思いました
- 一般教養の科目において、科目間の単位の取るしんどさが異なったのがつらかった
クラス指定科目がネックで取りたい授業が取れなかったのもつらかった
- 昨年はサークル活動や趣味に走りすぎてあまり勉学に励めなかったので、今年こそは京都大学の学生として恥ずかしくない程度の知識、教養を得たい。
- 学問は多岐に渡ると思った。
- 自分は研究には向いていない。
- テストは大変だが、有意義である。
- 高校とは違い、何を勉強したらよいかわからない科目が多かった。
- 興味をもって受講した科目も、なんとなく選んで受講した科目も、授業を通して得られるものがあつた。一年間まじめに受講してきてよかったと思う。
- 高校では習わなかった分野や内容を多少は知ることが出来ました。その分野で研究をしている教授の本音が聞けたのは貴重だったかなと思いました。将来役に立たなくても別に良いかなとは思いました。
- もっとフィールドワークがある授業を増やしたらいいと思った。
ポケゼミは上回生になっても受講できるようにすればよいと思った。
- 単位に関してすこしルーズな気がする
- 興味が出ないと感じた講義は、ただ漫然と受けてしまっていたように思う。
- 興味がある授業が何十個もあるわけではないので、全学の単位は取りやすくしてもいいと思う。そういう興味がなくても頑張らないとダメな勉強は高校まででやってきて入ったわけですし。
- 幅広い教養というよりは専門の導入でしかなくある程度の予備知識を前提しているため自分の専門外の教科を受講するのに抵抗があつた、例えば歴史に関する講義の多くは大学受験に世界史を選択しているひとに向けられたもので理系の自分が受講した場合、単位を落とすことやほかの科目に比べて多くの時間を割くことが予想されたため受講に踏み切れなかつた、理系向けの歴史科目や文系向けの自然科学科目などを充実してほしい
- もっと真面目に取り組めばよかったと思った。
- 徐々に意識が低くなっていく自分がいた
- 全学共通科目で学んだ内容が専門科目で出てきたりその逆もあり、高校時代とは違った学問の面白さを感じました。
- 様々な分野の学問があることを知つた。
- 専門外の分野についても知識を得ることができ、考えの幅が広がつた。
- 理系の分野では一見関係の無いような分野同士でもつながりがあること。そして、そのために幅広い知識が必要であること。
- 授業についていけないと感じた
周りの生徒はやはり自分より頭が良かったため、その助けがなければ単位はとれなかつたと思われる
- 高校の時はみんな授業中ノートをとって勉強していたと思います。
大学の勉強では、先生の多くがスライドを使うので、とてもノートを取りづらくなって、ノートをとってない人も多いと思います。そのせいで、生徒の授業への関心も下がっているのではないかと思います。

- 様々な分野の講義を受けたが、語学が一番興味深かった。
- おもしろくなかった
- 自分が今現在有している知識は非常に乏しく、各々の学問の概論的な理解は高校の時にしっ
かりやっておくべきだったなど感じる。入試に利用しなかった地理に特に顕著だ。この1年
間の学習を通して、自分の興味を確定させることはできなかった。2回生では、自分に興味
のない学問に対してすぐ思考を閉ざすクセを改善したい。
- いろんな学生と触れ合えて楽しい。
- あんまり記憶に残るものが少なかった。だいたいこんな感じだったというのは言えるけど、
どれだけ身についたかといわれるとあんまりだったかなと思う。
全学共通の科目は受け身で聞いていた感じだからそういうことになってしまったのだと思う。
- ◎多くの悩みを通じて未来にやりたい仕事を見つけました。
- ◎とても勉強になりました。また、自分でも気づいていなかった自分の興味のある分野に気づ
くことができ、有意義なものであったと感じています。
- ◎様々な分野の授業を通じて、自分がどのような分野に興味を持っているのかがより具体的に
わかった。
- ◎自分の専門にこだわることなく様々な分野の先生方の貴重なお話をきくことができたことに
満足している。せっかく選択した科目でも、例えば生物の予備知識がないために一部理解し
にくい部分があったことなどが残念だった。
- ◎授業の内容を全く理解していなくても単位が取れてしまったりするので、勉強する気になら
なかった。
- ◎少人数制のゼミ（生徒のプレゼンがメイン）が特に興味深く、楽しく最後まで取り組めた。
後期の全学共通科目の種類が少なく、全然とりたいとおもう科目がなかった。
- ◎自分か知らないことがあまりにも多いことがわかった。
成績に関してはある程度勉強すればそれなりの結果がついてくるから特に不満は感じなかつ
た。
- ◎教養教育といっても入門に終始するのではなく、各分野を専門とする先生の講義が受けられ
て非常に意義があった。ゼミ・実験など積極性が求められる科目の準備は大変だったが達成
感があった。
- ◎もう少し能動的に動けば、全学共通科目ももっと興味を持てたと思う。前期も後期も途中で
少し気が抜けてしまい、中途半端になってしまった。おもしろいと感じた講義は毎回集中し
て講義を受けることができたと思う。高校生のときにまったく無かったような授業(薬用植物
学や専門科目など)は未知の世界に飛び込めるような感覚で、楽しさや感動を覚えた。
- ◎高校までの勉強は模範解答の真似か暗記しかしていなかったことを痛感し、いま大学の授業
を通して自分の頭で考える難しさに悩んでいる。
- ◎週に1回しか授業がなく、そんなに理解していなくても単位をとってしまうので、ちゃんと
身につけているのか、意味のあるものだったのか不安。
- ◎京都大学の教養とは何か、本当にこの授業を受けることに意味があるのかということ
- ◎自分には知らないことがまだ一杯ある。新しいことを知るのは楽しい。
さらに幅広くいろいろなことを学びたい。もっと授業外でも勉強するべき。
2回生以降も全共科目を取りたい。
- ◎高校までは、クラス単位でしか授業を受ける事がなかったのですが、大学生人になってから大
人数で大きな教室で授業を受ける機会が多くなって、その感覚に慣れる事が出来ました。
- ◎広い教養を学べた

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

A (満足した科目)

あなたが特に満足した科目をいくつか思い浮かべてください（もし満足した科目がなければBに進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、人社、自然、外国語、現社、拡大のうちの1つを選択してください。また、それぞれの科目について満足した理由として、あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

科目1

科目名：(自由記述)

登録群：(人社・自然・外国語・現社・拡大から選択)

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容が興味深かった
- 2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた
- 3 授業の進め方に工夫がみられた
- 4 担当教員の熱意を感じた
- 5 成績評価の方法や結果に納得できた
- 6 その他 (自由記述)

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～6から選択）（ ）

(以下、科目2、3も同様)

B (不満だった科目)

あなたが特に不満だった科目をいくつか思い浮かべてください（もし不満だった科目がなければ問4に進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、人社、自然、外国語、現社、拡大のうちの1つを選択してください。また、それぞれの科目について不満だった理由として、あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

科目1

科目名：(自由記述)

登録群：(人社、自然、外国語、現社、拡大から選択)

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容に興味を持てなかった
- 2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった
- 3 授業の進め方に工夫がみられなかった
- 4 担当教員が不熱心だった
- 5 成績評価の方法や結果に納得できなかった
- 6 教室環境（広さ・設備など）に問題があった
- 7 その他 (自由記述)

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～7から選択）（ ）

(以下、科目2、3も同様)

問4 あなたは入学当初、京都大学の全学共通科目に対して、次の各項目をそれぞれどの程度期待していましたか。

	期待していた	どちらかといえば		期待していなかった
		期待していた	期待していなかった	
A. 専門以外の幅広い知識・教養	1	2	3	4
B. 専門での勉強の基礎	1	2	3	4
C. 実用的な知識・技能	1	2	3	4
D. 教員との交流	1	2	3	4
E. 学生どうしの交流	1	2	3	4
F. 自分の研究分野の決定の手がかり	1	2	3	4
G. 自分の研究内容へのヒントや刺激	1	2	3	4

問5 全体として、あなたが全学共通科目に対して抱いていた期待は実現されましたか。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 実現された | 2 どちらかといえば実現された |
| 3 どちらかといえば実現されなかった | 4 実現されなかった |

問6 今後の全学共通科目に対して、どのような改善を要望しますか。あてはまるものすべてに

チェックをつけ、最も重要なもの1つを選択してください。

- 1 特に要望はない
- 2 学生の関心により対応した内容の授業をしてほしい
- 3 学生の予備知識や理解度をもっと考慮してほしい
- 4 授業の進め方をもっと工夫してほしい
- 5 授業にもっと熱意をもってほしい
- 6 学生とのコミュニケーションをもっととってほしい
- 7 成績評価の基準・方法をもっと明確にほしい
- 8 教室環境（設備・広さなど）を改善してほしい
- 9 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～9から選択）（ ）

問7 あなたは、1年間全学共通科目を受講して、どんなことを感じ、どんなことを考えましたか。自由にお書きください（たとえば、勉強における悩みや不満、その解決策、あるいは楽しさ・感動など、何でも結構です）。



平成26年度2回生進級時アンケート報告書

平成26年9月 発行

編集 京都大学国際高等教育院

発行 京都大学 吉田南構内共回事務部教務課
〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町
Tel 075-753-6690/6513
